

Ⅲ 調査結果

1 第1回アンケートの調査結果

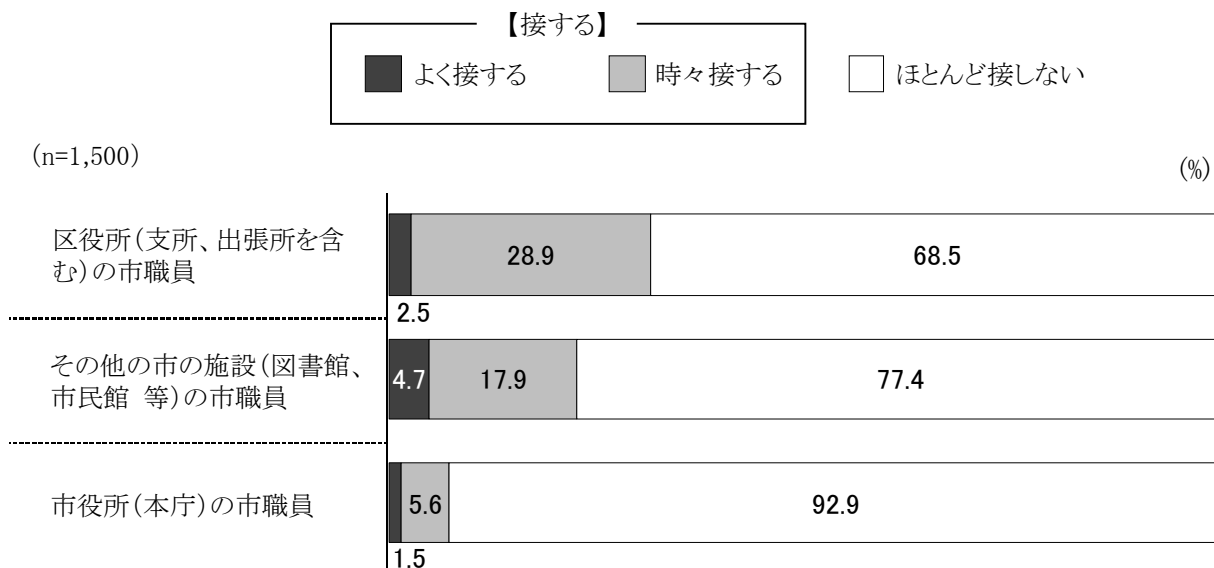
1.1 川崎市の職員について

(1) 川崎市職員と接する機会

Q 1. あなたは、日ごろ、市役所や区役所、市の施設等の利用などを通じて、どのくらいの頻度で川崎市の職員と接していますか。項目ごとに最もあてはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。

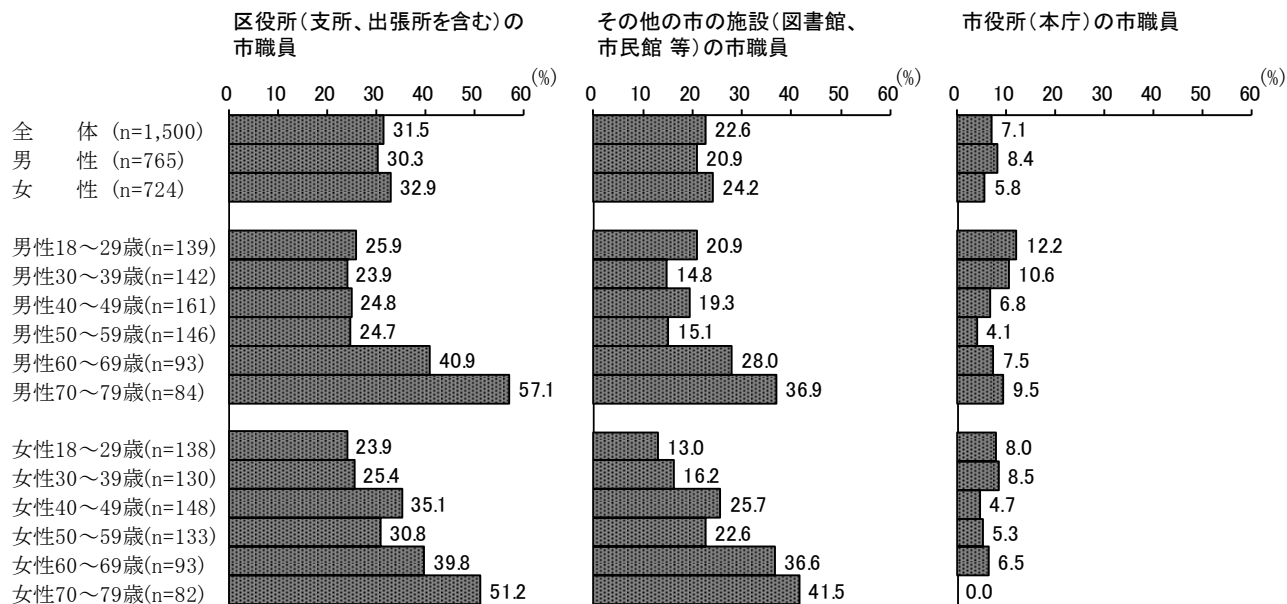
「区役所（支所、出張所を含む）の市職員」「その他の市の施設（図書館、市民館等）の市職員」「市役所（本庁）の市職員」、いずれにおいても「ほとんど接しない」が最も多く、特に「市役所（本庁）の市職員」では「ほとんど接しない」が9割を超えている。「よく接する」と「時々接する」合計した【接する】は、「区役所（支所、出張所を含む）の市職員」が31.5%で最も多い。

【図表 1】川崎市職員と接する機会



【接する】（「よく接する」と「時々接する」の合計）と回答した人について、性／年齢別に見ると、「区役所（支所、出張所を含む）の市職員」と「その他の市の施設（図書館、市民館等）の市職員」では男女ともに概ね年代が高くなるほど多くなっている。

【図表 2】川崎市職員と接する機会（【接する】回答者）
（性／年齢別）



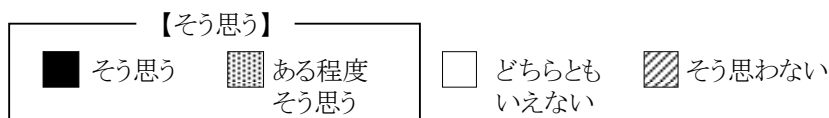
(2) 川崎市職員による市民対応等について

Q2. あなたは、川崎市の職員による市民対応等について、どのように感じていますか。項目ごとに最もあてはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。

「そう思う」と「ある程度そう思う」を合計した【そう思う】は「言葉づかい・態度がよい」では50.9%と半数となっている。

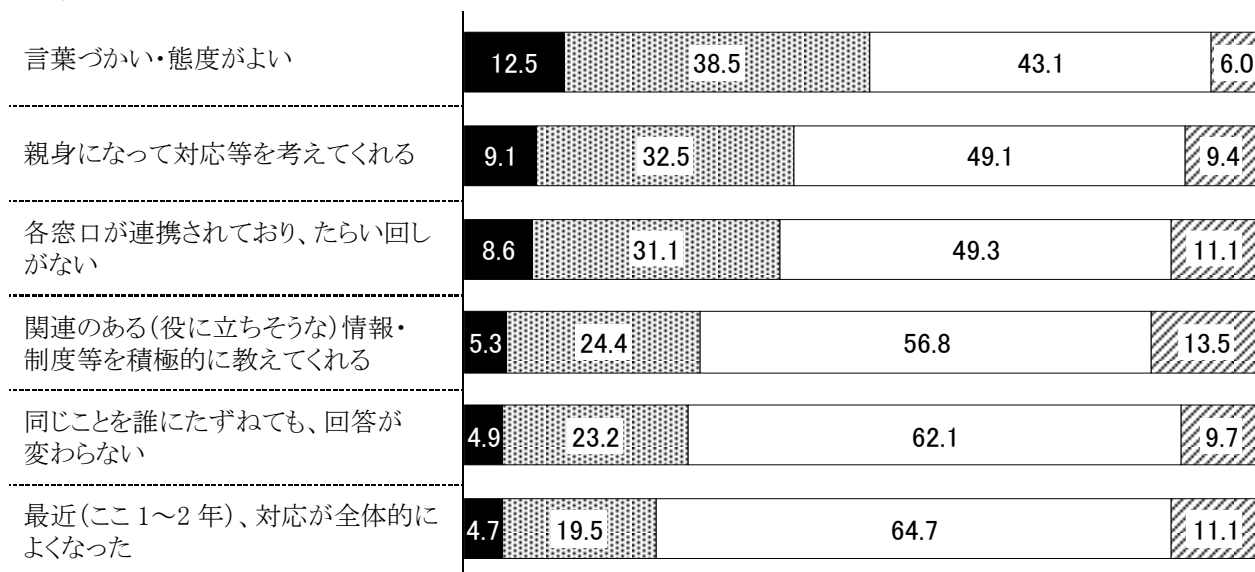
なお、Q1の結果から6割以上が市職員と接する機会がないということもあり、いずれの項目も「どちらともいえない」の回答が4割以上となっている。

【図表 3】川崎市職員による市民対応等について



(n=1,500)

(%)



Q1の「川崎市職員と接する機会」について、以下のように【市職員との接触あり】と【市職員との接触なし】の2つに分類した。

【市職員との接触あり】

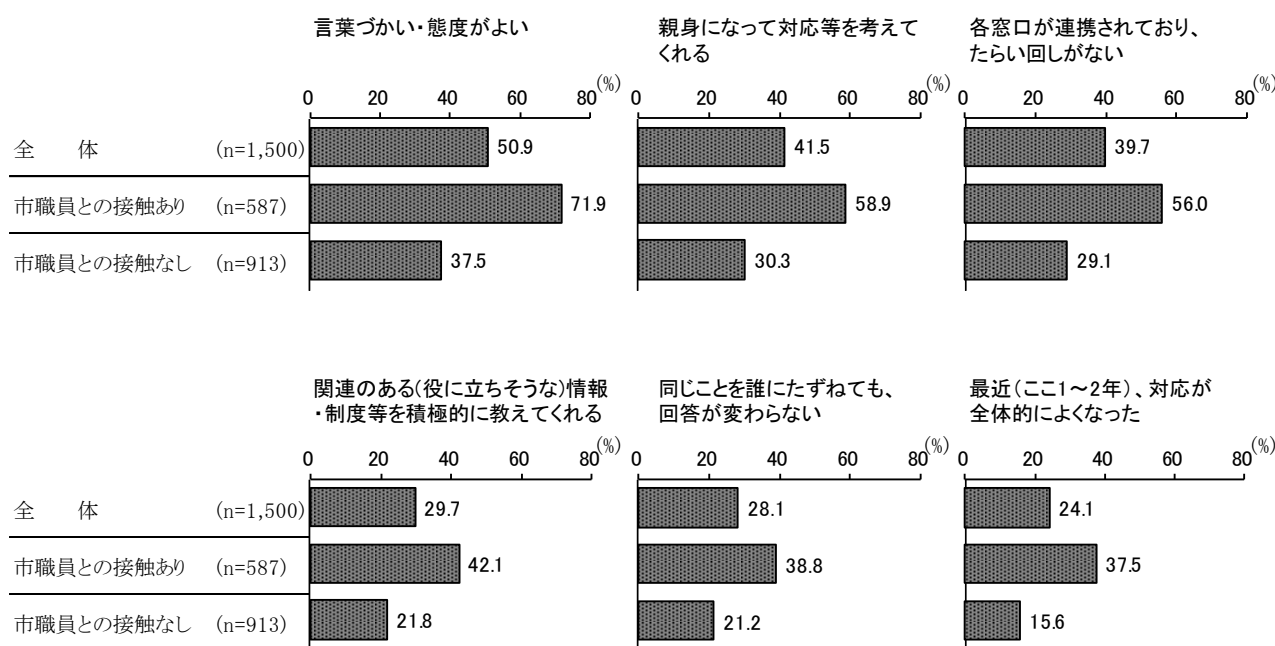
- ・「区役所（支所、出張所を含む）の市職員」「その他の市の施設（図書館、市民館等）の市職員」「市役所（本庁）の市職員」のいずれかで「よく接する」または「時々接する」と回答。

【市職員との接触なし】

- ・「区役所（支所、出張所を含む）の市職員」「その他の市の施設（図書館、市民館等）の市職員」「市役所（本庁）の市職員」のいずれも「ほとんど接しない」と回答

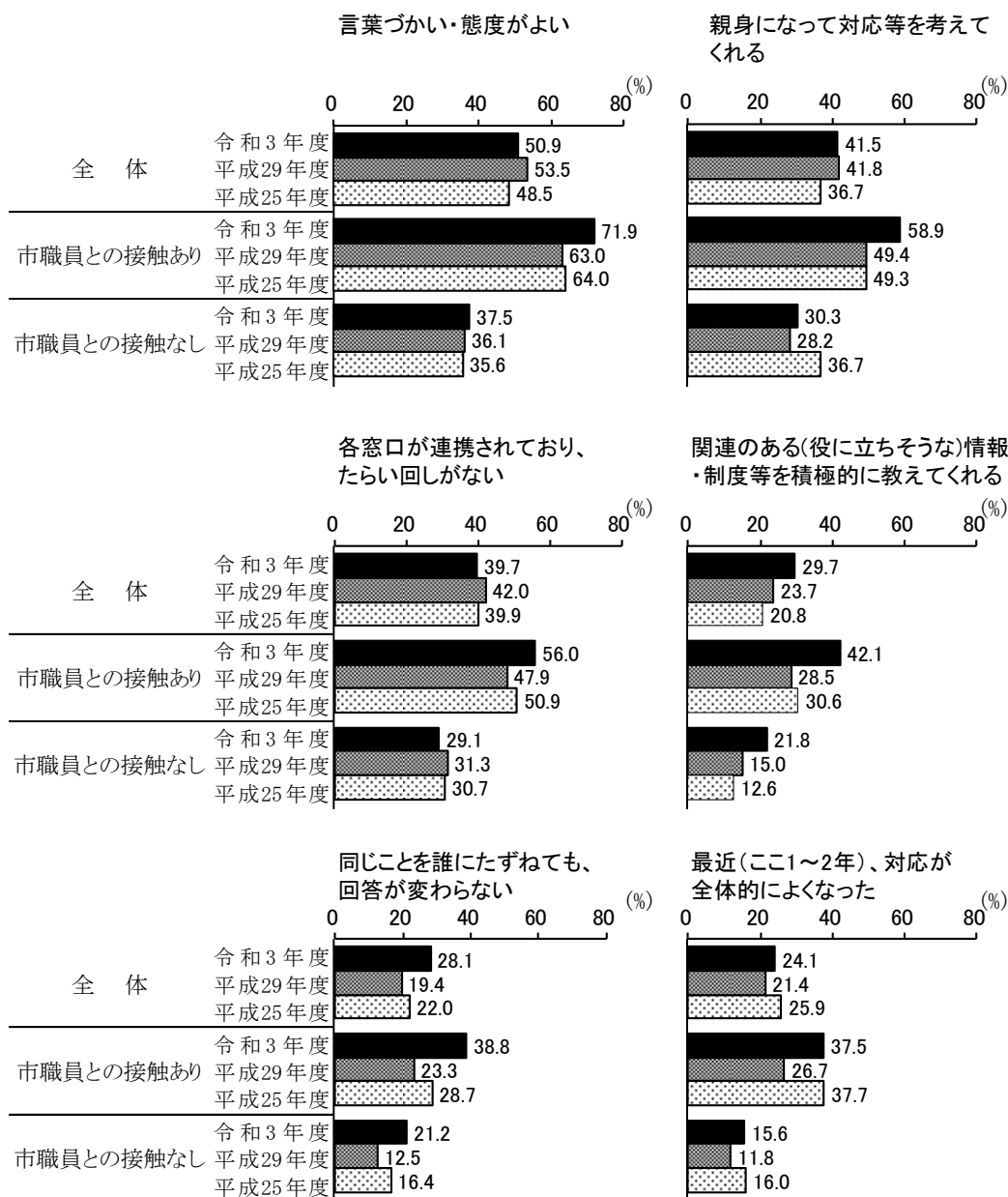
【そう思う】（「そう思う」と「ある程度そう思う」の合計）と回答した人について上記2分類別に見ると、いずれの項目においても市職員との接触がある層の方が【そう思う】と回答する割合が高くなっている。

【図表 4】川崎市職員による市民対応等について（【そう思う】回答者）
 （川崎市職員と接する機会別）



平成25年度と平成29年度の第2回調査（郵送調査）の結果と比較すると、市職員との接触がある層では、【そう思う】と回答する割合が高くなっている。

【図表 5】川崎市職員による市民対応等について（【そう思う】回答者）
（川崎市職員と接する機会別／過去調査との比較）



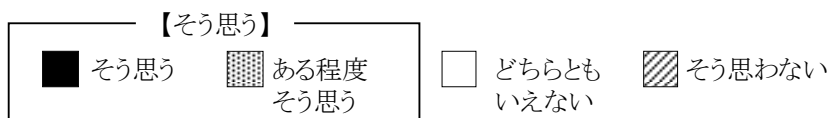
(3) 川崎市職員の仕事ぶりについて

Q3. あなたは、川崎市の職員の仕事ぶりについて、どのような印象を持っていますか。項目ごとに最もあてはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。

「そう思う」と「ある程度そう思う」を合計した【そう思う】は「市民サービスの提供・事務処理が的確になされている」が44.8%と最も多かった。

なお、6割以上が市職員と接する機会がないということもあり、いずれの項目も「どちらともいえない」の回答が4割以上となっている。

【図表 6】川崎市職員の仕事ぶりについて



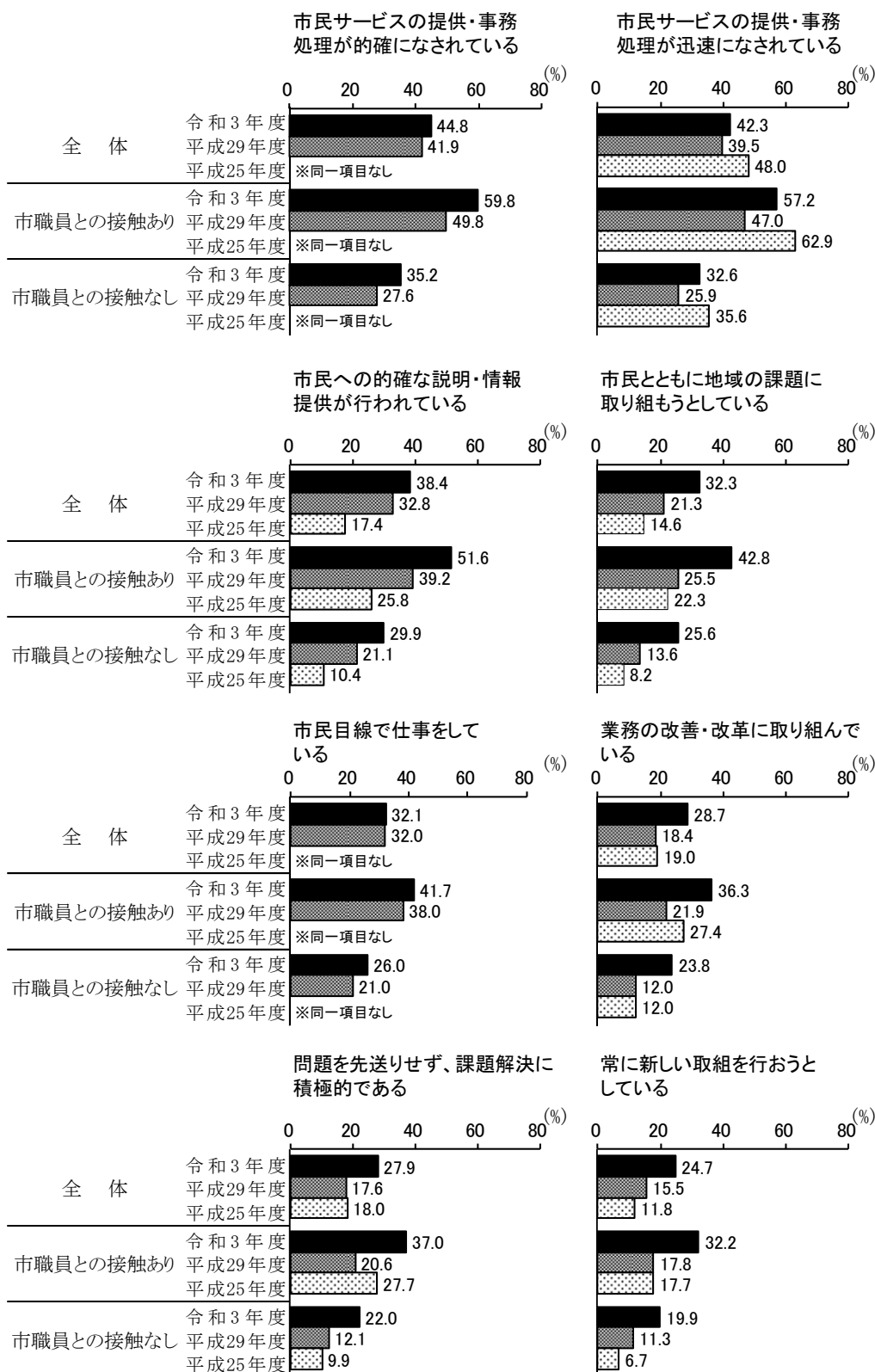
(n=1,500)

(%)

市民サービスの提供・事務処理が的確になされている	8.2	36.6	46.1	9.1
市民サービスの提供・事務処理が迅速になされている	7.3	34.9	46.7	11.1
市民への的確な説明・情報提供が行われている	7.0	31.4	51.0	10.6
市民とともに地域の課題に取り組もうとしている	5.7	26.6	56.3	11.4
市民目線で仕事をしている	5.7	26.4	54.5	13.4
業務の改善・改革に取り組んでいる	4.9	23.8	58.1	13.2
問題を先送りせず、課題解決に積極的である	5.9	22.0	59.3	12.9
常に新しい取組を行おうとしている	4.7	20.1	60.5	14.8

【そう思う】(「そう思う」と「ある程度そう思う」の合計)と回答した人について、Q1の「川崎市職員と接する機会」別(20頁参照)に見ると、いずれの項目においても市職員との接触がある層の方が【そう思う】と回答する割合が高くなっており、平成25年度と平成29年度の第2回調査(郵送調査)の結果においても、市職員との接触がある層では、【そう思う】と回答する割合が高くなっている。

【図表 7】川崎市職員の仕事ぶりについて(【そう思う】回答者)
(川崎市職員と接する機会別/過去調査との比較)

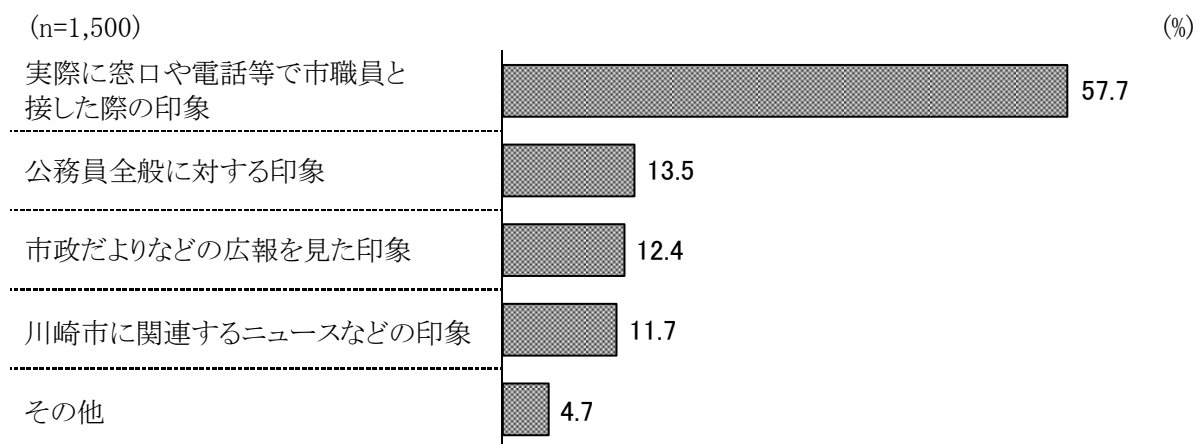


(4) 「川崎市職員の仕事ぶり」評価の観点

Q4. 先ほどの Q3 「川崎市の職員の仕事ぶり」についてお答えいただいた際、どのような観点からその印象を持ちましたか。最もあてはまるものを1つ選んでください。

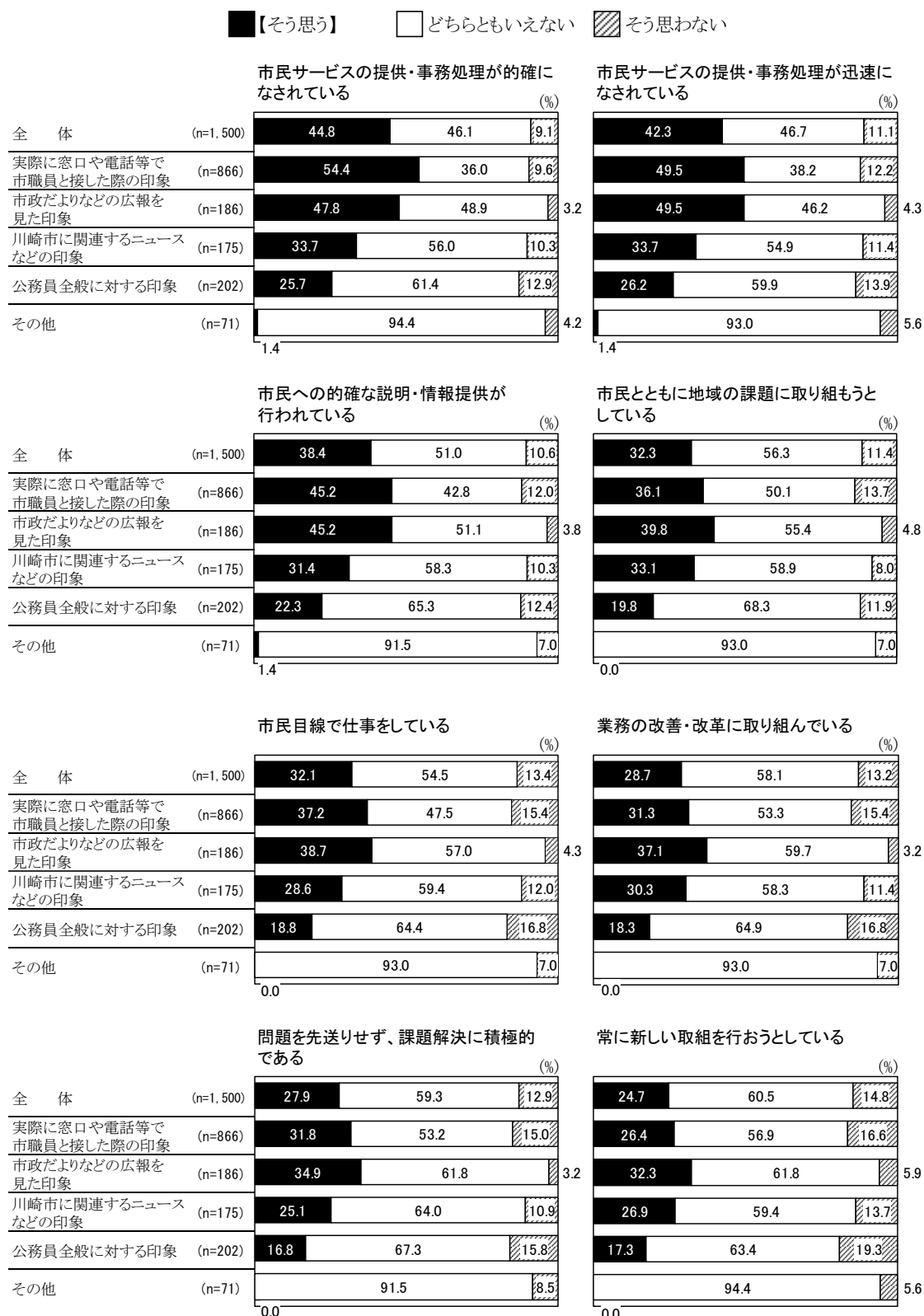
「実際に窓口や電話等で市職員と接した際の印象」が57.7%と最も多く、次いで「公務員全般に対する印象」(13.5%)、「市政だよりなどの広報を見た印象」(12.4%)と続いている。

【図表 8】「川崎市職員の仕事ぶり」評価の観点



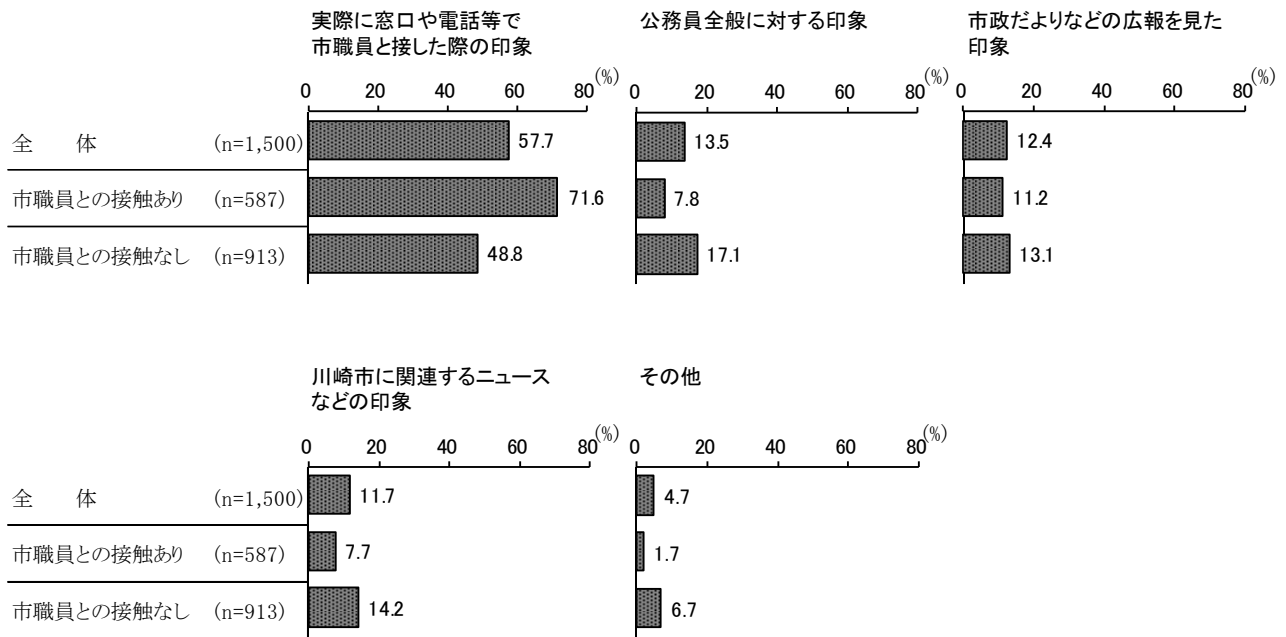
Q3の「川崎市職員の仕事ぶり」についてQ4の評価の観点別に見ると、「常に新しい取組を行おうとしている」以外の項目では、「実際に窓口や電話等で市職員と接した際の印象」や「市政だよりなどの広報を見た印象」から評価している人は、「川崎市に関連するニュースなどの印象」や「公務員全般に対する印象」から評価している人よりも【そう思う】(「そう思う」と「ある程度そう思う」の合計)と回答する割合が高くなっている。

【図表 9】川崎市職員の仕事ぶりについて
(評価の観点別)



Q1の「川崎市職員と接する機会」別(20頁参照)を見ると、「実際に窓口や電話等で市職員と接した際の印象」は市職員との接触のある層の方が多く、「公務員全般に対する印象」と「川崎市に関連するニュースなどの印象」では市職員との接触のない層の方が多くなっている。

【図表 10】「川崎市職員の仕事ぶり」評価の観点
(川崎市職員と接する機会別)



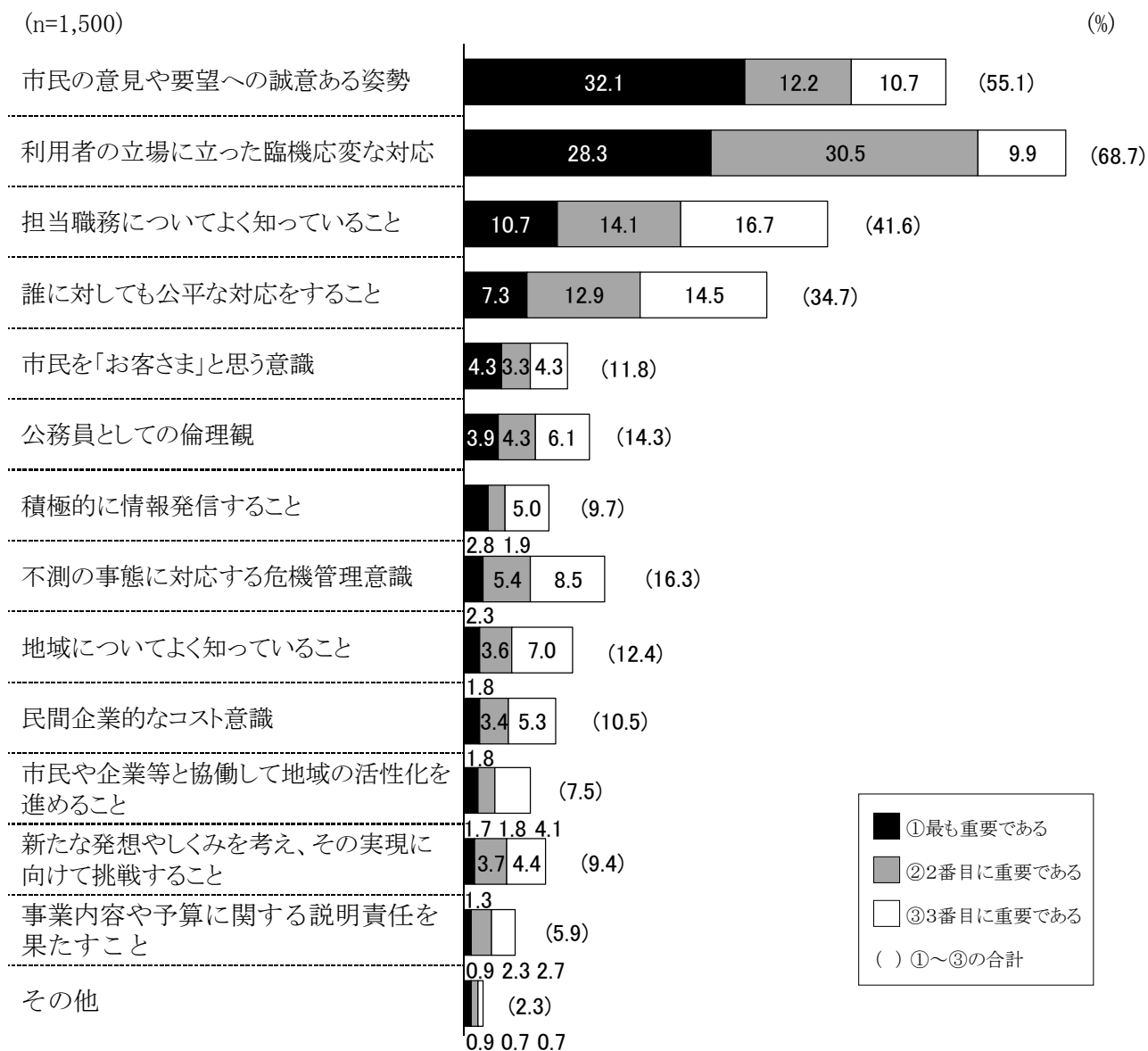
(5) 市職員に求めるものとして、特に重要であると思うもの

Q5. あなたが、川崎市の職員に求めるものとして、特に重要であると思うものは何ですか。

- ①最も重要であると思うもの
- ②2番目に重要であると思うもの
- ③3番目に重要であると思うもの

「①最も重要であると思うもの」としては、「市民の意見や要望への誠意ある姿勢」が32.1%と最も多く、次いで「利用者の立場に立った臨機応変な対応」(28.3%)、「担当職務についてよく知っていること」(10.7%)と続いている。また、「①最も重要であると思うもの」～「③3番目に重要であると思うもの」の合計では、「利用者の立場に立った臨機応変な対応」が68.7%と最も多く、次いで「市民の意見や要望への誠意ある姿勢」(55.1%)、「担当職務についてよく知っていること」(41.6%)と続いている。

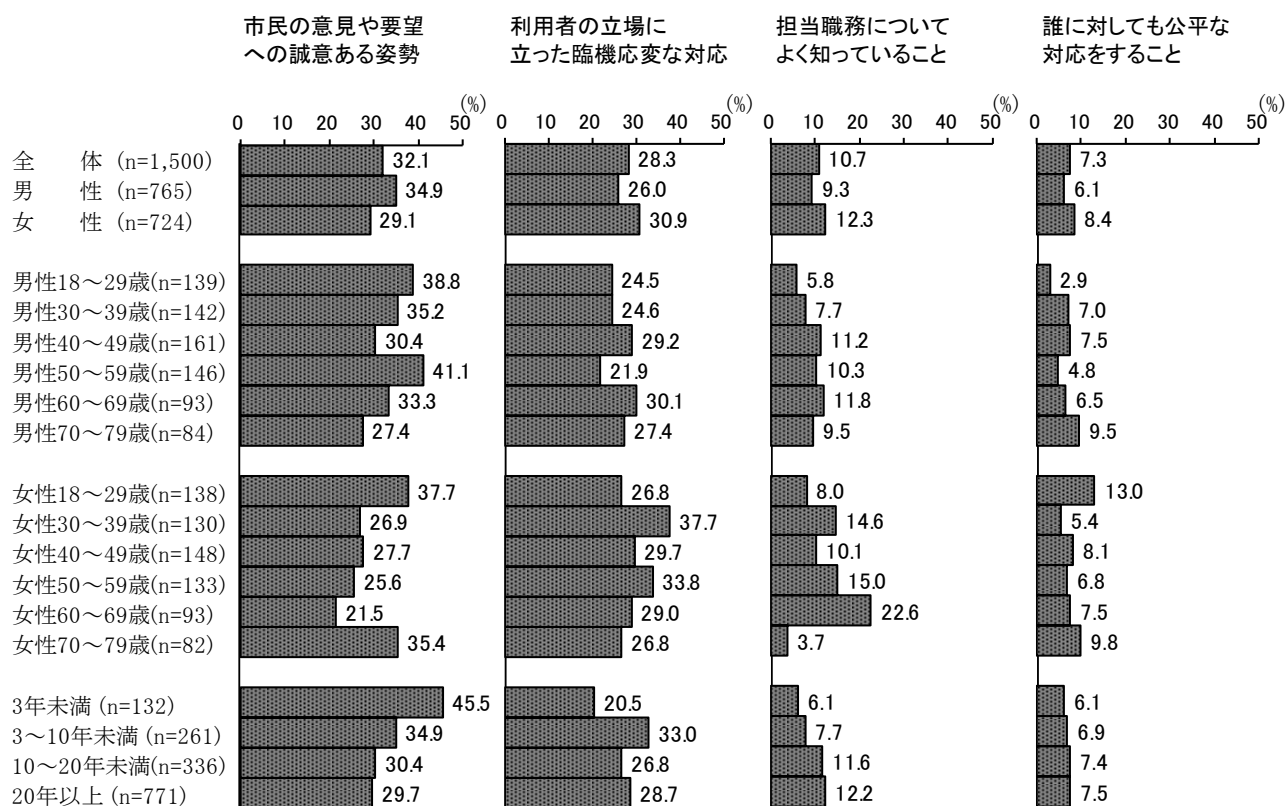
【図表 11】市職員に求めるものとして、特に重要であると思うもの



「①最も重要であると思うもの」の上位4項目について性/年齢別に見ると、「市民の意見や要望への誠意ある姿勢」は男性では18～29歳と50～59歳で、女性では18～29歳と70～79歳で比較的多くなっている。また、「利用者の立場に立った臨機応変な対応」は女性30～39歳で最も多く、「担当職務についてよく知っていること」は女性60～69歳で最も多い。

川崎市における居住年数別に見ると、「市民の意見や要望への誠意ある姿勢」は「3年未満」で45.5%と最も多く、居住年数が長くなるほど少なくなっている。また、「担当職務についてよく知っていること」は居住年数が長くなるほど多くなっている。

【図表 12】市職員に求めるものとして、特に重要であると思うもの（最も重要であると思うもの）《上位4項目》
(性/年齢・居住年数別)

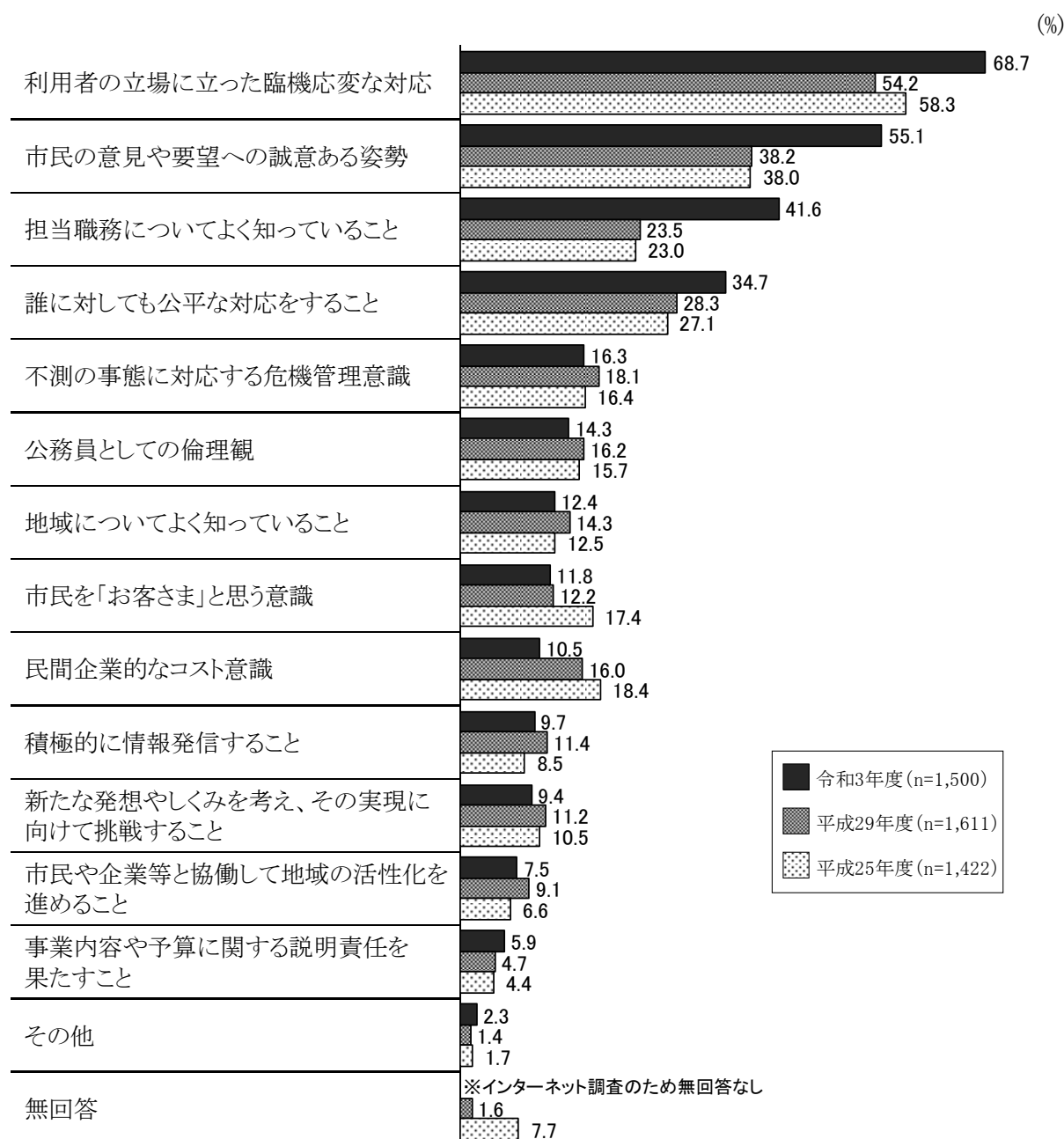


「①最も重要であると思うもの」～「③3番目に重要であると思うもの」の合計を、同じ設問を順不同で3つまでの複数回答で聴取した平成25・29年度調査（郵送調査）と比較すると、第1位から第4位までの項目はいずれも今回の調査の方が5ポイント以上高くなっている。

ただし、今回の調査については、「3番目に重要であると思うもの」までの回答を必須としたのに対し、平成25・29年度調査は、1つや2つの回答も可としていたことから、今回の調査で「2番目に重要であると思うもの」で最も選ばれた「利用者の立場に立った臨機応変な対応」（30.5%）や「3番目に重要であると思うもの」で最も選ばれた「担当職務についてよく知っていること」（16.7%）、次いで多かった「誰に対しても公平な対応をすること」（14.5%）については、特に考慮が必要な数値となっている。

一方で、「民間企業的なコスト意識」については、今回の調査の方が5ポイント以上低くなっている。

【図表 13】市職員に求めるものとして、特に重要であると思うもの（①～③の合計）
（過去調査との比較）



※平成25・29年度は順不同で3つまでの複数回答で聴取。

1.2 文化芸術活動について

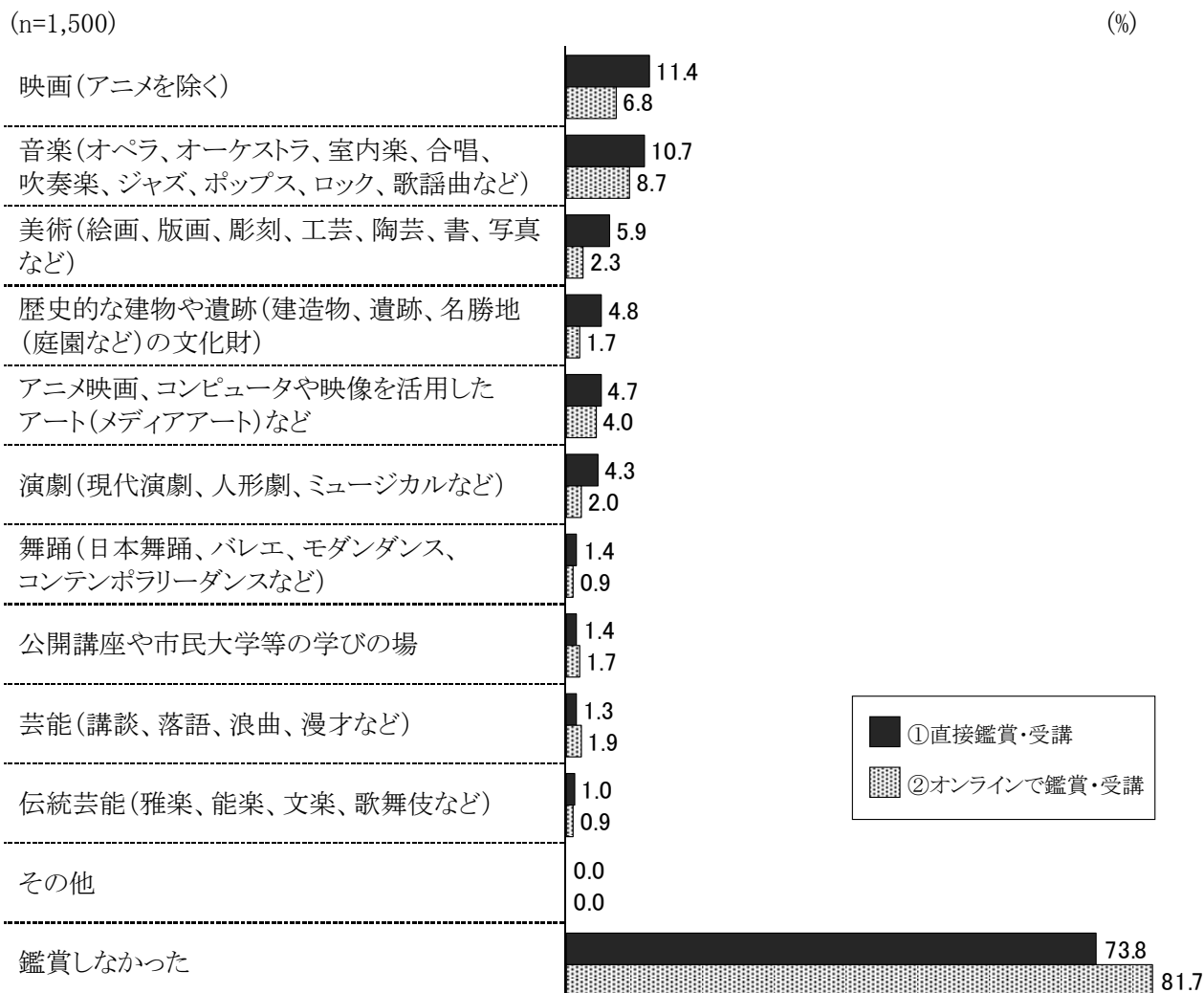
(1) 過去1年間の、鑑賞した文化芸術や受講した公開講座、市民大学の状況

Q6. あなたが、過去1年間に、鑑賞した文化芸術や受講した公開講座、市民大学などがありますか。項目ごとにあてはまるものをすべて選んでください。なお、鑑賞しなかった方は「鑑賞しなかった」を選択してください。

- ①ホール・劇場、映画館、美術館などで直接鑑賞、または大学や公共施設等で直接受講したもの
- ②オンライン（インターネット）で鑑賞、または受講したもの

【直接鑑賞・受講したもの】、【オンラインで鑑賞・受講したもの】ともに「鑑賞しなかった」が7～8割と最も多くなっている。鑑賞・受賞したものとしては、【直接】では「映画（アニメを除く）」が11.4%と最も多く、次いで「音楽（オペラ、オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など）」（10.7%）、「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真など）」（5.9%）と続いている。【オンライン】では「音楽（オペラ、オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など）」が8.7%と最も多く、次いで「映画（アニメを除く）」（6.8%）、「アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（メディアアート）など」（4.0%）と続いている。

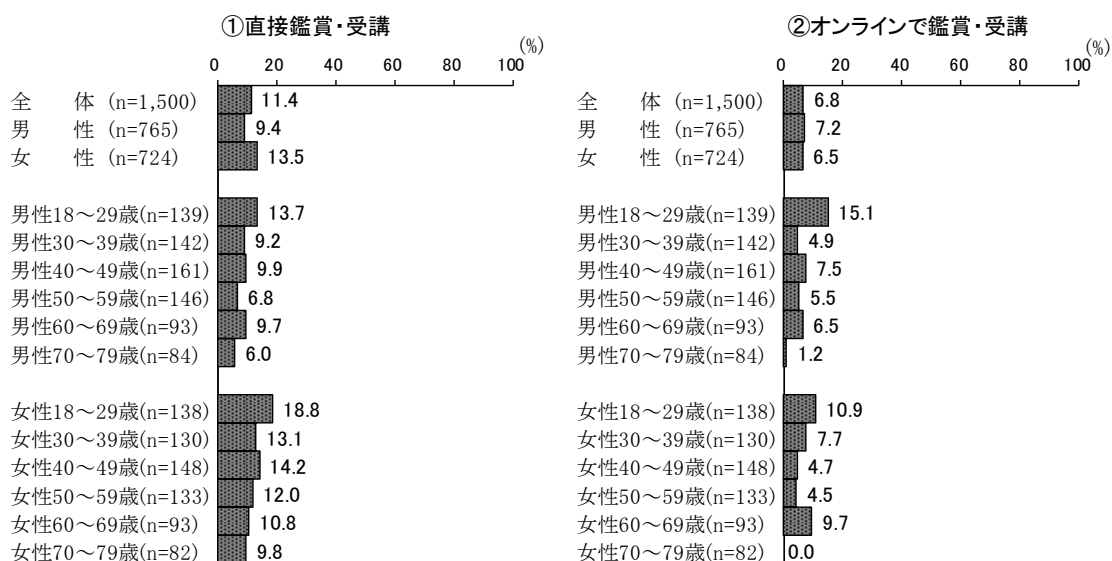
【図表 14】 過去1年間の、鑑賞した文化芸術や受講した公開講座、市民大学の状況（複数回答）



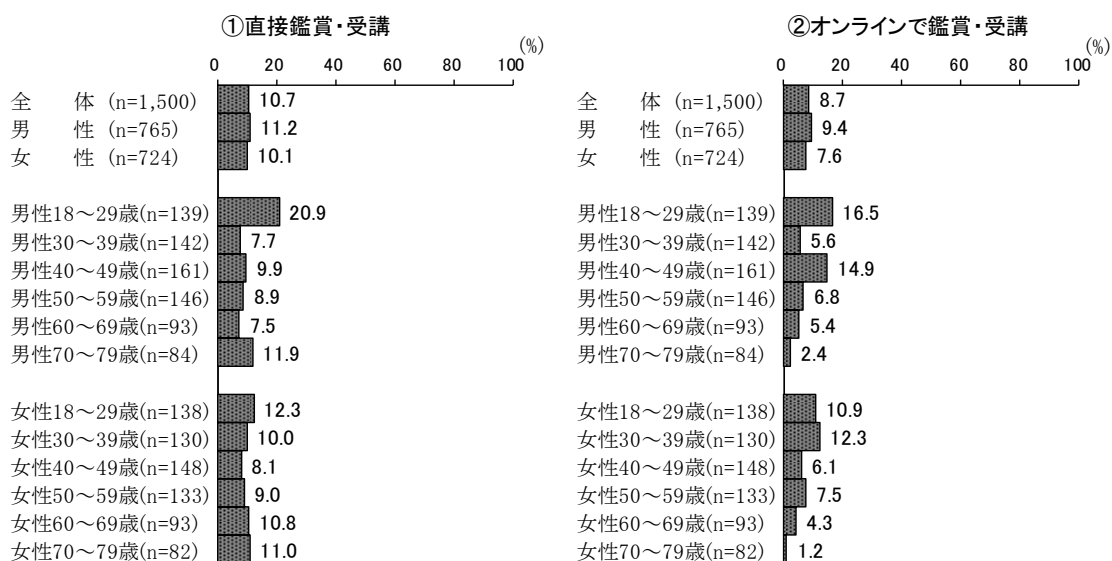
性／年齢別に見ると、「映画（アニメを除く）」は、【直接鑑賞・受講したもの】、【オンラインで鑑賞・受講したもの】いずれも男女ともに18～29歳で最も多くなっている。一方で、「鑑賞しなかった」は【直接鑑賞・受講したもの】、【オンラインで鑑賞・受講したもの】いずれも、男女ともに18～29歳が最も少ない。

【図表 15】 過去1年間の、鑑賞した文化芸術や受講した公開講座、市民大学の状況（複数回答）《上位4項目》
（性／年齢別）

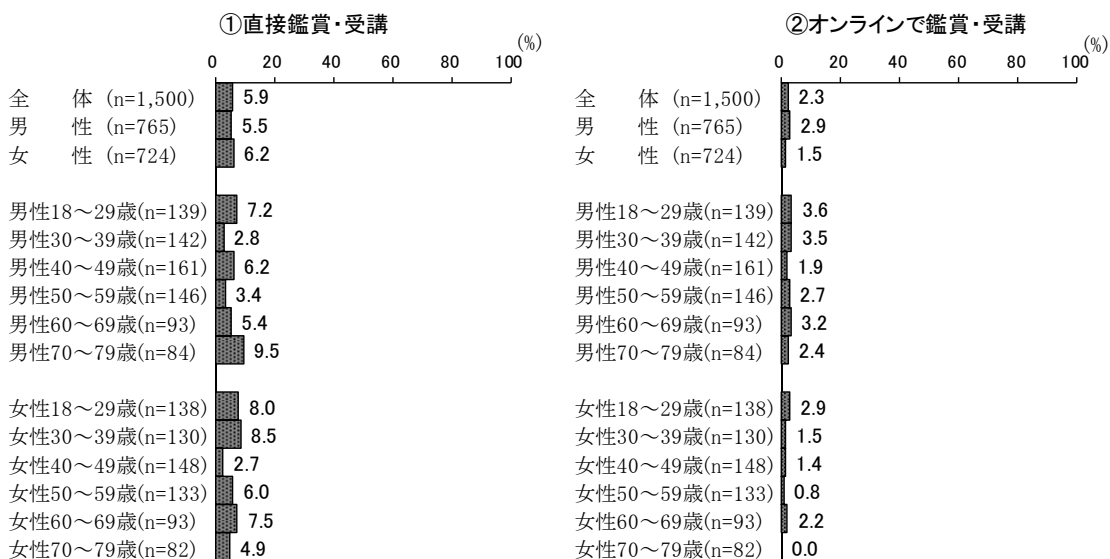
■ 映画（アニメを除く）



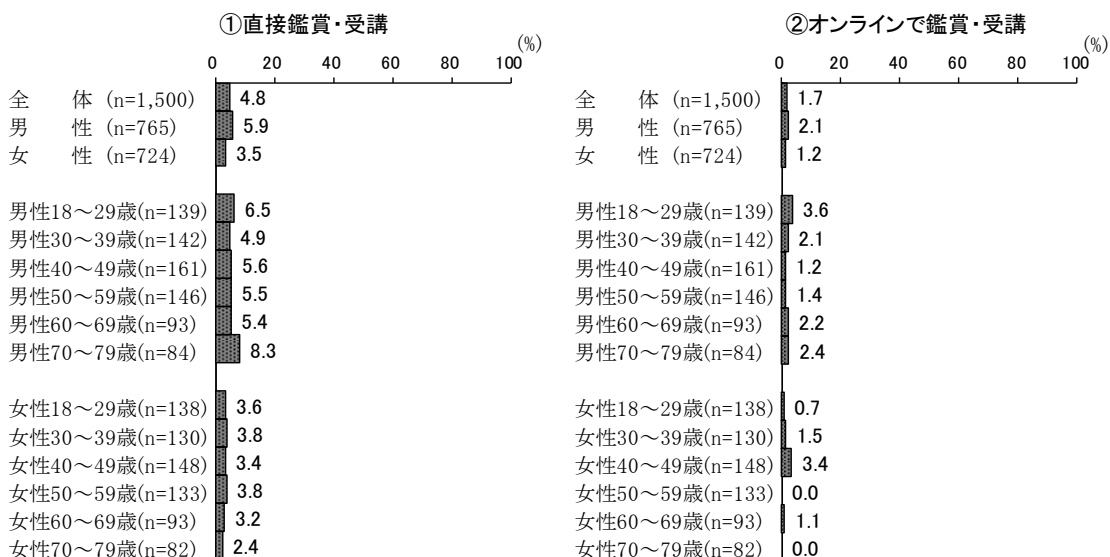
■ 音楽（オペラ、オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など）



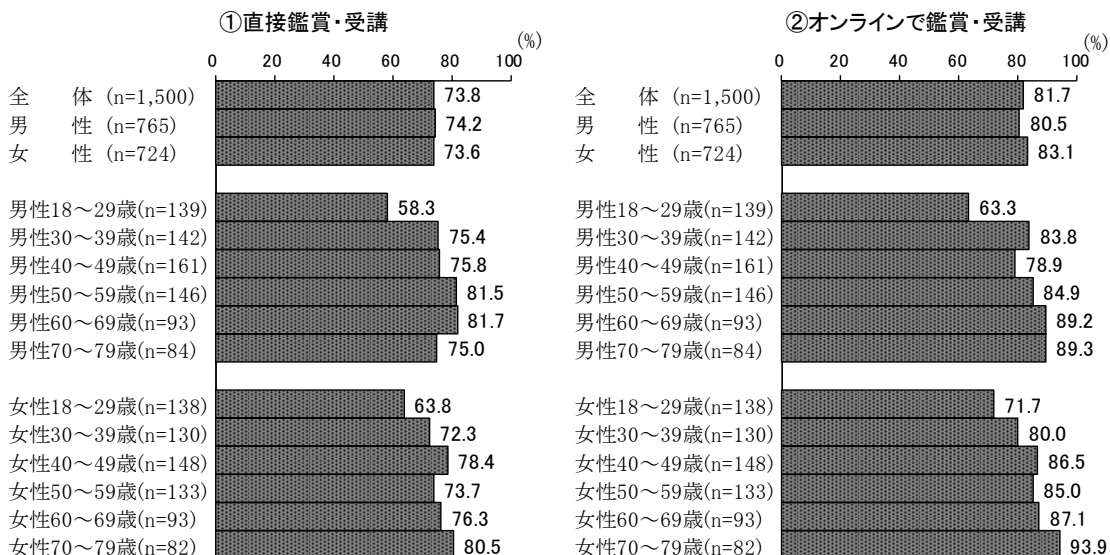
■ 美術(絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真など)



■ 歴史的な建物や遺跡(建造物、遺跡、名勝地(庭園など)の文化財)



■ 鑑賞しなかった



「①ホール・劇場、映画館、美術館などで直接鑑賞、または大学や公共施設等で直接受講したもの」について平成30年度第1回調査（インターネット調査）の結果と比較すると、「鑑賞しなかった」が37.6ポイント増加しており、大きな変化が見られる。

【図表 16】過去1年間の、鑑賞した文化芸術や受講した公開講座、市民大学の状況（複数回答）
①ホール・劇場、映画館、美術館などで直接鑑賞、または大学や公共施設等で直接受講したもの
（過去調査との比較）

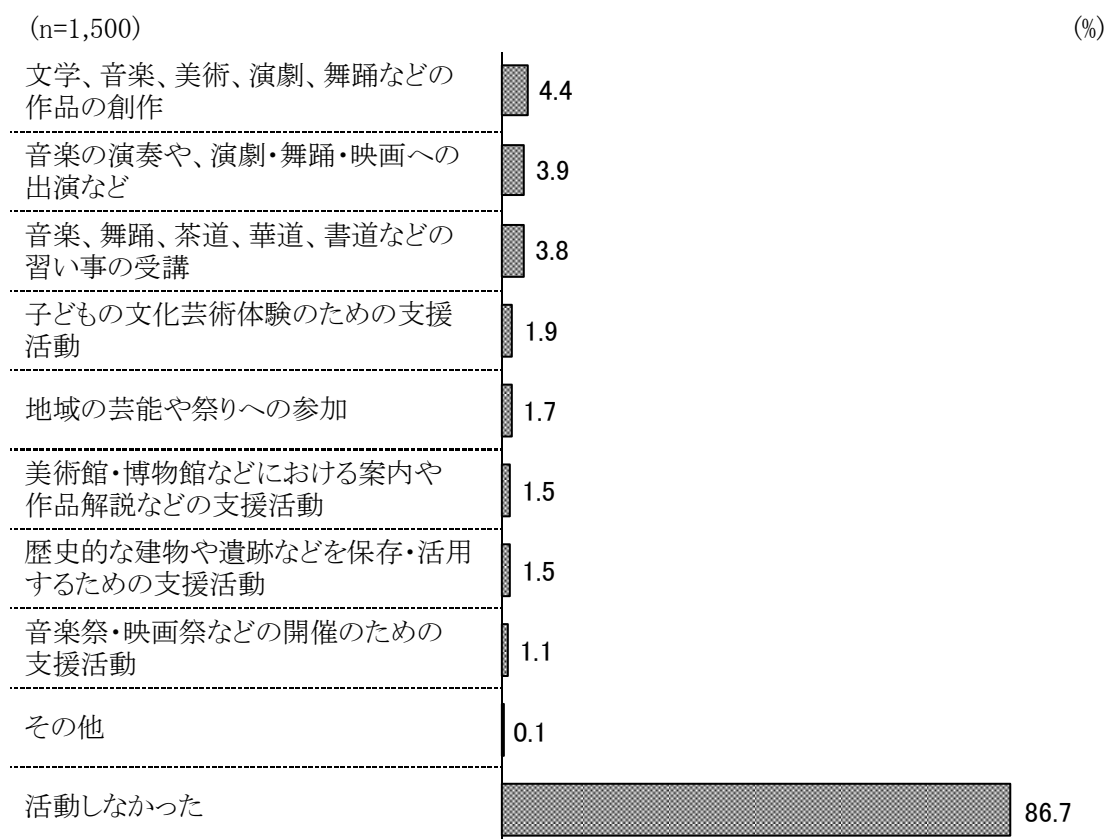
	令和3年度 (今回) (n=1,500)	平成30年度 (前回) (n=1,500)	増減
映画(アニメを除く)	11.4%	35.1%	▲ 23.7
音楽(オペラ、オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など)	10.7%	21.7%	▲ 11.0
美術(絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真など)	5.9%	21.3%	▲ 15.4
歴史的な建物や遺跡(建造物、遺跡、名勝地(庭園など)の文化財)	4.8%	19.4%	▲ 14.6
アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート(メディアアート)など	4.7%	11.4%	▲ 6.7
演劇(現代演劇、人形劇、ミュージカルなど)	4.3%	10.4%	▲ 6.1
舞踊(日本舞踊、バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなど)	1.4%	3.0%	▲ 1.6
公開講座や市民大学等の学びの場	1.4%	-	-
芸能(講談、落語、浪曲、漫才など)	1.3%	3.5%	▲ 2.2
伝統芸能(雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など)	1.0%	3.8%	▲ 2.8
その他	0.0%	0.5%	▲ 0.5
鑑賞しなかった	73.8%	36.2%	37.6
わからない	-	4.7%	-

(2) 過去1年間に活動した文化芸術に関わる活動の状況

Q7. あなたが、過去1年間に行った文化芸術に関わる活動はありますか。次の中から該当するものすべてを選んでください。なお、活動しなかった方は「活動しなかった」を選択してください。

「活動しなかった」が86.7%と最も多くなっている。活動したものとしては、「文学、音楽、美術、演劇、舞踊などの作品の創作」(4.4%)、「音楽の演奏や、演劇・舞踊・映画への出演など」(3.9%)、「音楽、舞踊、茶道、華道、書道などの習い事の受講」(3.8%) などとなっている。

【図表 17】 過去1年間に活動した文化芸術に関わる活動の状況（複数回答）



過去1年間の文化芸術に関わる活動状況について平成30年度第1回調査(インターネット調査)の結果と比較すると、「活動しなかった」が8.6ポイント増加している。

【図表 18】過去1年間に活動した文化芸術に関わる活動の状況(複数回答)
(過去調査との比較)

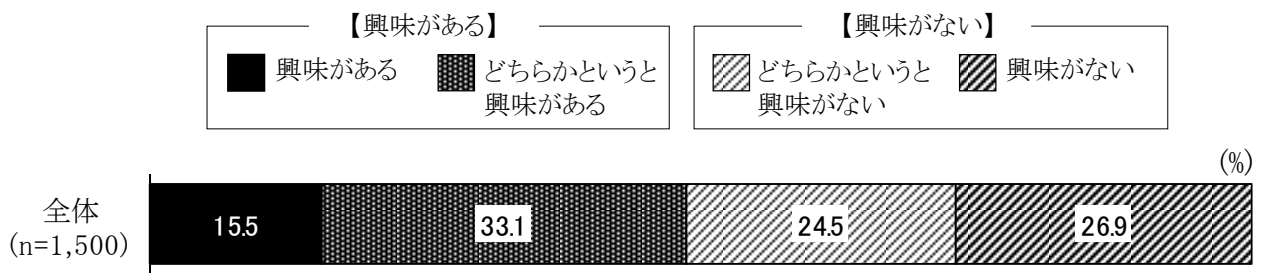
	令和3年度 (今回) (n=1,500)	平成30年度 (前回) (n=1,500)	増減
文学、音楽、美術、演劇、舞踊などの作品の創作	4.4%	4.2%	0.2
音楽の演奏や、演劇・舞踊・映画への出演など	3.9%	5.1%	▲ 1.2
音楽、舞踊、茶道、華道、書道などの習い事の受講	3.8%	4.1%	▲ 0.3
子どもの文化芸術体験のための支援活動	1.9%	1.8%	0.1
地域の芸能や祭りへの参加	1.7%	4.3%	▲ 2.6
美術館・博物館などにおける案内や作品解説などの支援活動	1.5%	1.3%	0.2
歴史的な建物や遺跡などを保存・活用するための支援活動	1.5%	0.9%	0.6
音楽祭・映画祭などの開催のための支援活動	1.1%	1.0%	0.1
その他	0.1%	0.5%	▲ 0.4
活動しなかった	86.7%	78.1%	8.6
わからない	-	6.5%	-

(3) 文化芸術への興味

Q8. あなたは「芸術文化活動」に対してどの程度興味がありますか。

「興味がある」と「どちらかというに興味がある」を合計した【興味がある】は48.6%、「どちらかというに興味がない」と「興味がない」を合計した【興味がない】は51.4%であった。

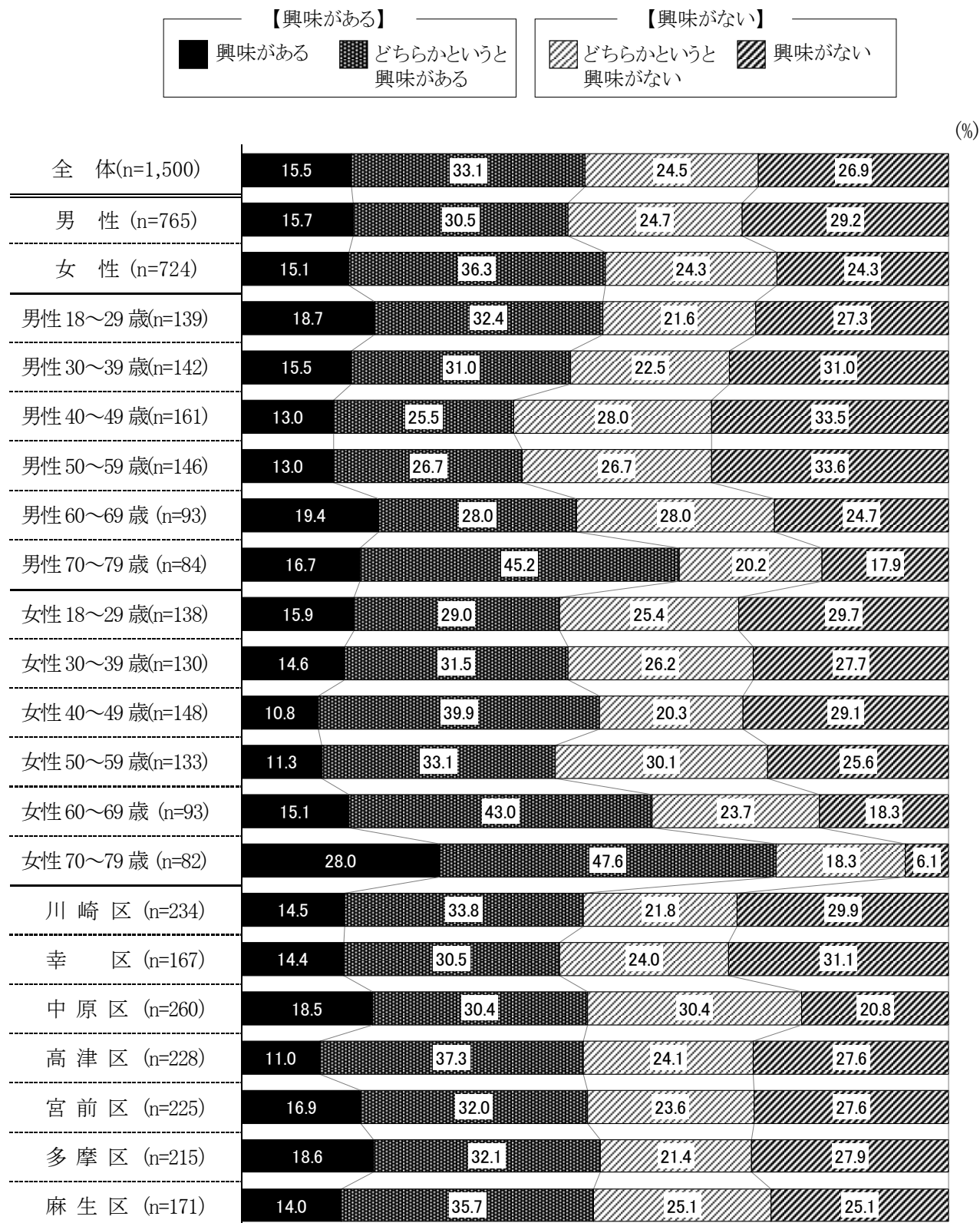
【図表 19】文化芸術への興味



性／年齢別に見ると、【興味がある】は男女ともに70～79歳で最も多く、特に女性70～79歳では75.6%と7割を超えている。一方で、男性40～49歳(38.5%)と男性50～59歳(39.7%)では3割台と、他の性／年齢と比べて低い。

なお、居住区別では大きな差は見られなかった。

【図表 20】文化芸術への興味（性／年齢別、居住区別）



Q6の「過去1年間の、鑑賞した文化芸術や受講した公開講座、市民大学の状況」とQ8「文化芸術への興味」の回答状況から、対象者を以下の3つのグループに分類した。

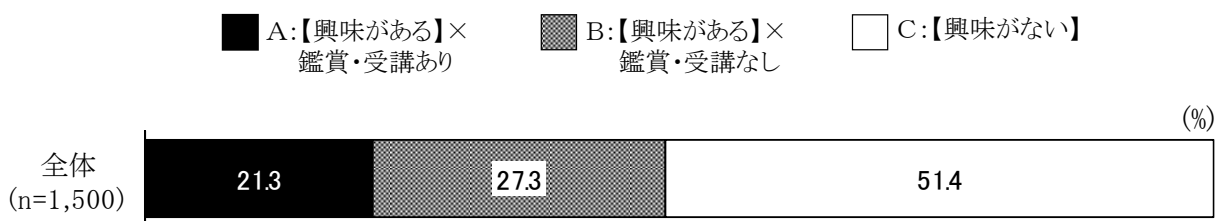
鑑賞・受講の状況について

- A 「文化芸術に【興味がある】」かつ「過去1年間の鑑賞・受講（直接・オンラインいずれか）あり」
- B 「文化芸術に【興味がある】」かつ「過去1年間の鑑賞・受講（直接・オンラインいずれも）なし」
- C 「文化芸術に【興味がない】」

		Q6 過去1年間の、鑑賞した文化芸術や 受講した公開講座、市民大学の状況	
		直接・オンラインいずれか 活動あり	直接・オンラインいずれも 活動あり
Q8 文化芸術への 興味	興味がある	A	B
	どちらかという 興味がある		
	どちらかという 興味がない	C	
	興味がない		

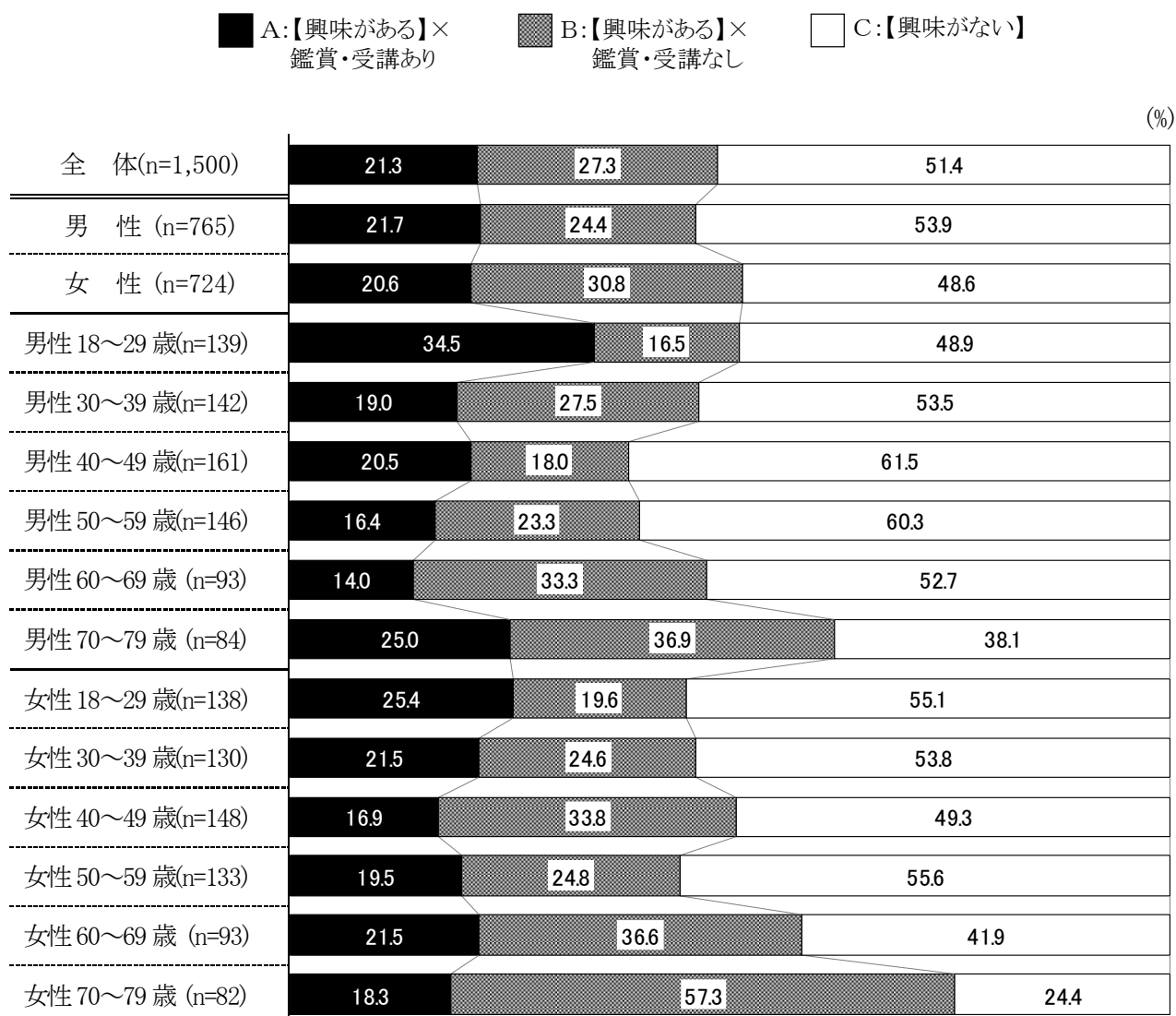
全体 (n=1,500) のうち、Cの文化芸術に興味がないグループが 51.4%と最も多く、次いでBの文化芸術に興味はあるが過去1年間では鑑賞・受講をしていないグループが 27.3%、Aの文化芸術に興味があり過去1年間で鑑賞・受講をしているグループは 21.3%であった。

【図表 21】文化芸術への興味と過去1年間の文化芸術や公開講座等の鑑賞・受講状況



性／年齢別に見ると、Aの文化芸術に興味があり過去1年間で鑑賞・受講をしているグループは男女ともに18～29歳が最も多いが、男性18～29歳では34.5%と特に多い。Bの文化芸術に興味はあるが過去1年間では鑑賞・受講をしていないグループは男女ともに70～79歳で最も多く、女性70～79歳では57.3%と特に多い。

【図表 22】文化芸術への興味と過去1年間の文化芸術や公開講座等の鑑賞・受講状況
(性／年齢別)



Q7の「過去1年間に活動した文化芸術に関わる活動の状況」とQ8「文化芸術への興味」の回答状況から、対象者を以下の3つのグループに分類した。

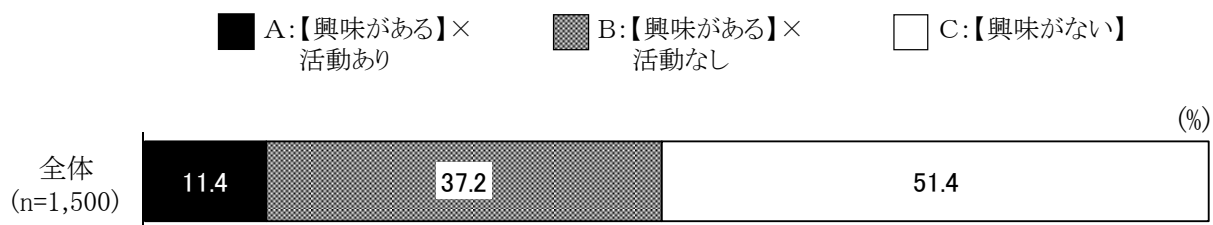
活動の状況について

- A 「文化芸術に【興味がある】」かつ「過去1年間に文化芸術に関わる活動あり」
- B 「文化芸術に【興味がある】」かつ「過去1年間に文化芸術に関わる活動なし」
- C 「文化芸術に【興味がない】」

		Q7 過去1年間にいった文化芸術に関わる活動の状況	
		活動あり	活動なし
Q8 文化 芸術 への 興味	興味がある	A	B
	どちらかという と興味がある		
	どちらかという と興味がない	C	
	興味がない		

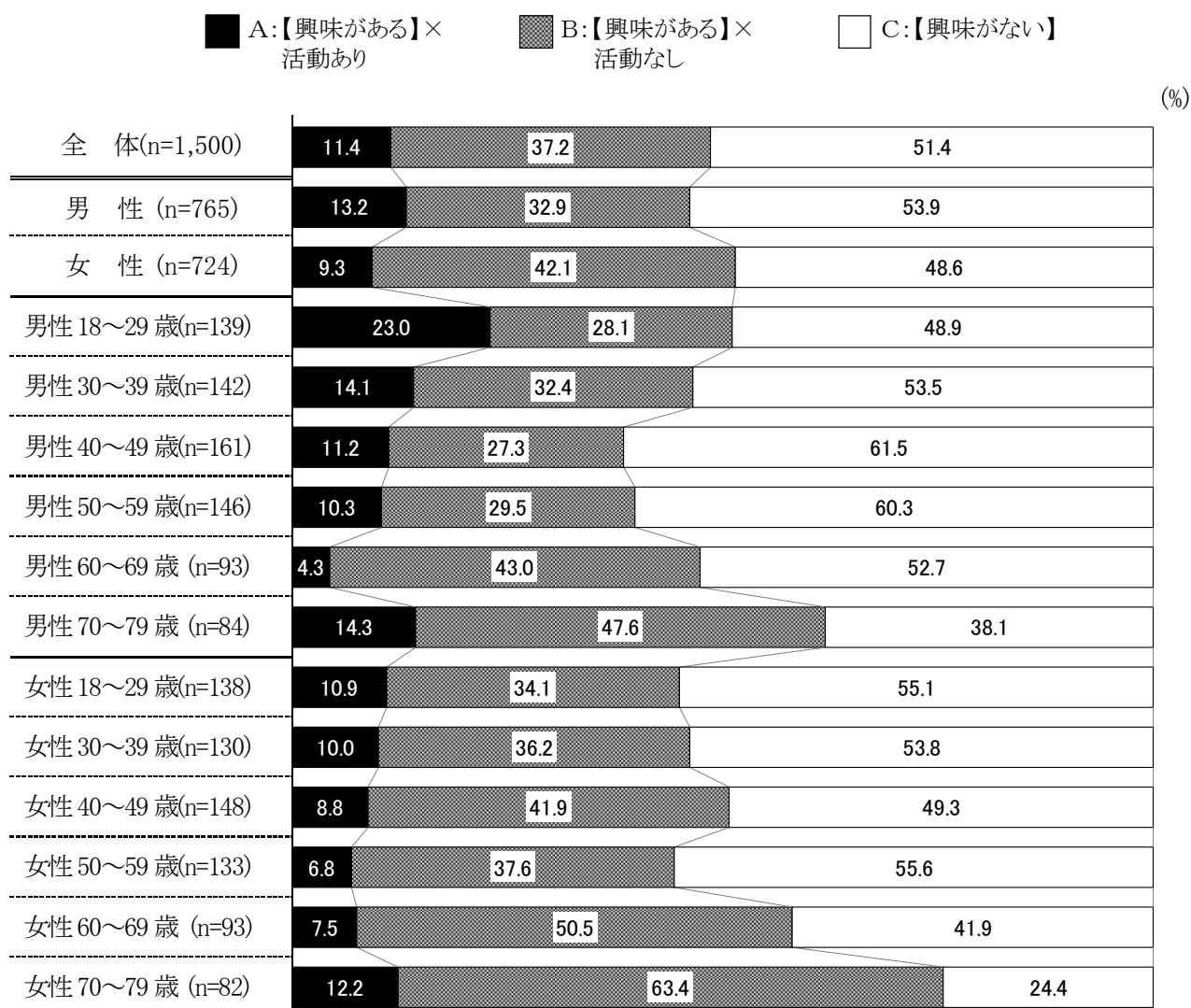
全体 (n=1,500) のうち、Cの文化芸術に興味がないグループが 51.4%と最も多く、次いでBの文化芸術に興味はあるが過去1年間では活動をしていないグループが 37.2%、Aの文化芸術に興味があり過去1年間で活動をしているグループは 11.4%であった。

【図表 23】文化芸術への興味と過去1年間にいった文化芸術に関わる活動の状況



性／年齢別に見ると、Aの文化芸術に興味があり過去1年間に活動をしているグループは男性では18～29歳が最も多く、女性では70～79歳で最も多い。Bの文化芸術に興味はあるが過去1年間では活動をしていないグループは男女ともに70～79歳で最も多い。

【図表 24】文化芸術への興味と過去1年間に行った文化芸術に関わる活動の状況
(性／年齢別)

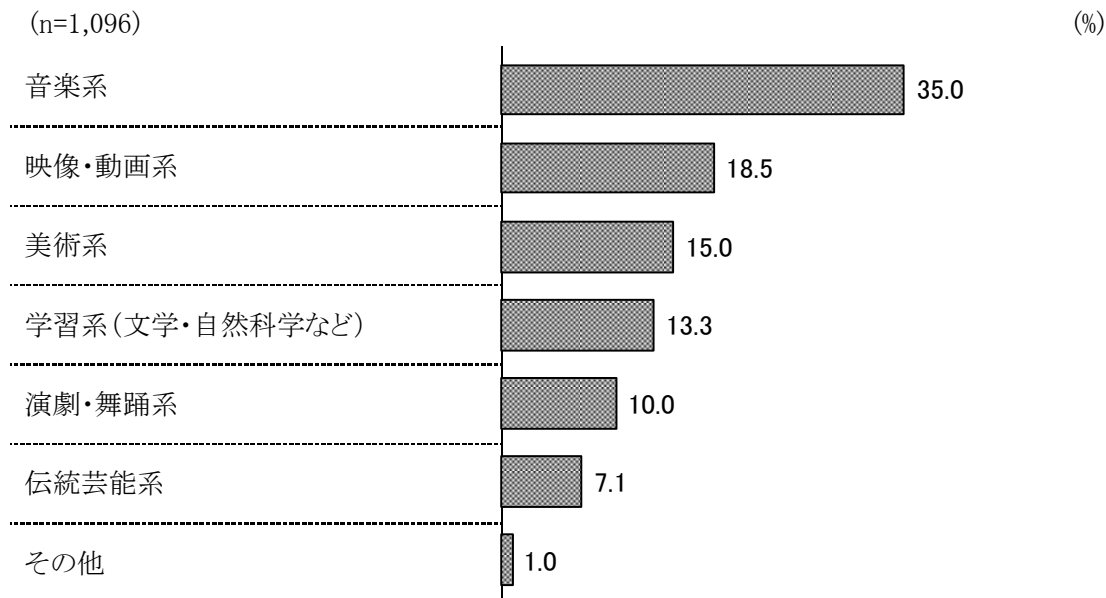


(4) 興味を持っている芸術文化活動のジャンル

Q9. 次の芸術文化活動のジャンルの中で、最も興味があるものを1つ選んでください。

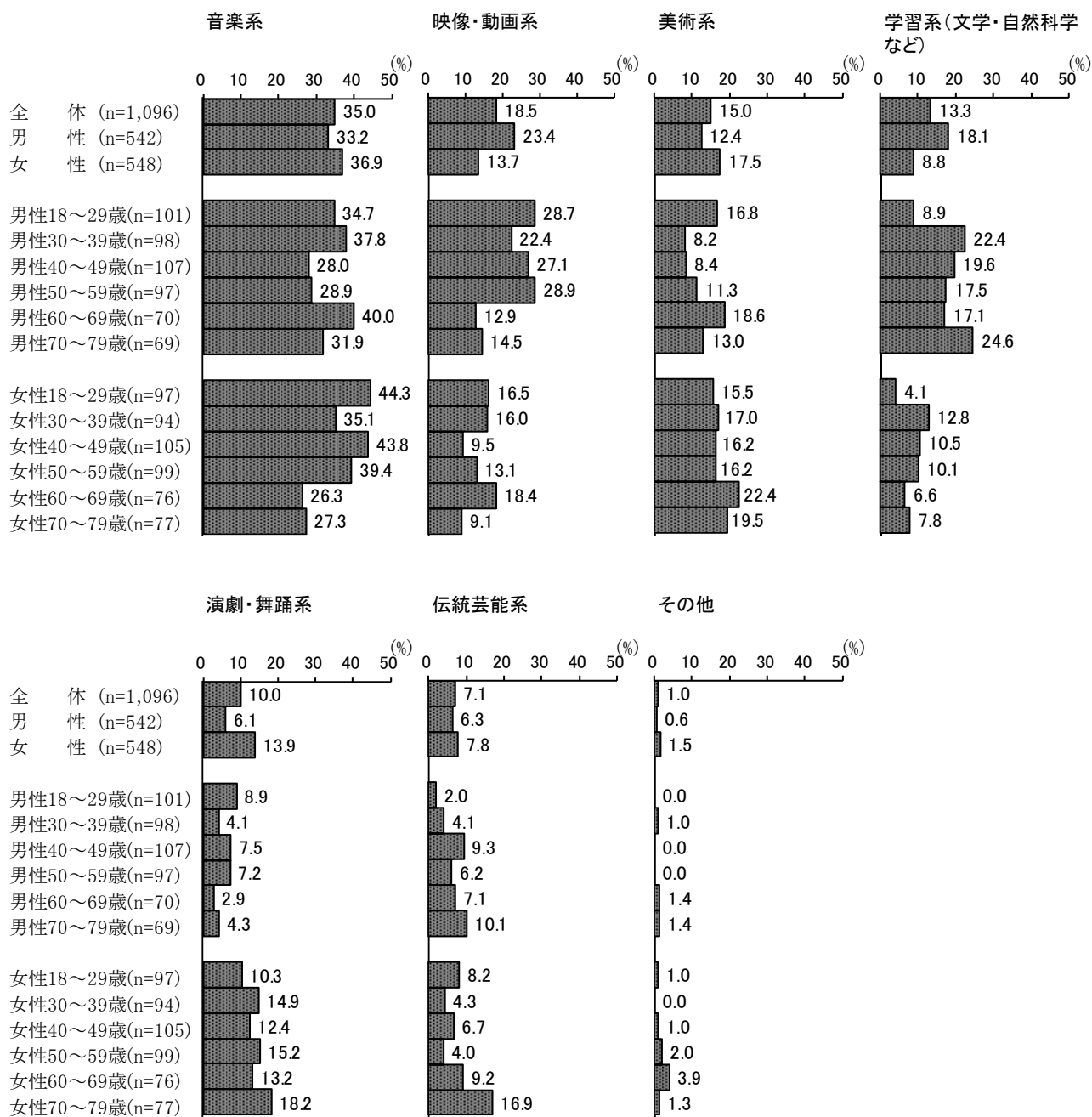
Q8で文化芸術活動に「興味がある」「どちらかというに興味がある」「どちらかというに興味がない」と回答した人に最も興味があるジャンルについてたずねたところ、「音楽系」が35.0%と最も多く、次いで「映像・動画系」(18.5%)、「美術系」(15.0%)、「学習系(文学・自然科学など)」(13.3%)と続いている。

【図表 25】最も興味のある芸術文化活動のジャンル



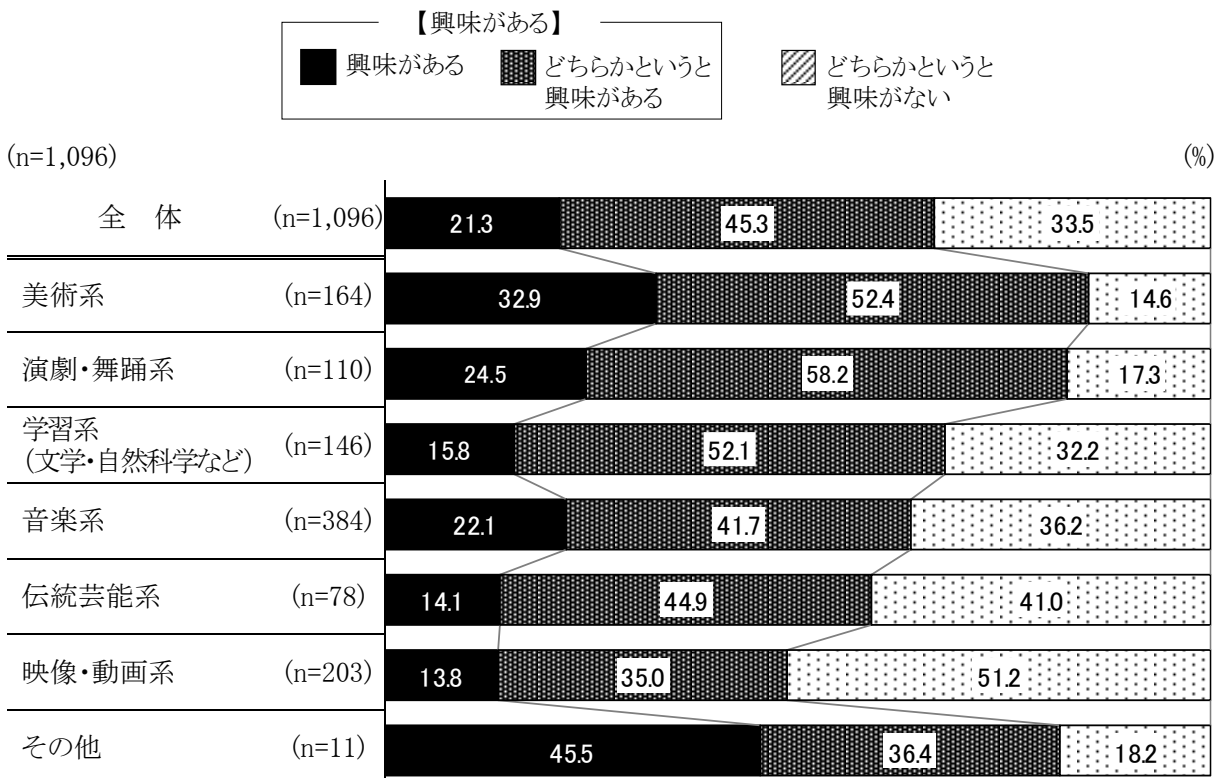
性／年齢別に見ると、「映像・動画系」「学習系(文学・自然科学など)」では男性の方が多く、「音楽系」「美術系」「演劇・舞踊系」では女性の方が多くなっている。また、「映像・動画系」は男性50歳代以下で2割台と多く、「学習系(文学・自然科学など)」は男性の30～39歳と70～79歳で2割台と、他の性／年齢と比べて多くなっている。

【図表 26】最も興味のある芸術文化活動のジャンル(性／年齢別)



Q8の「文化芸術への興味」を最も興味のある芸術文化活動のジャンル別に見ると、【興味がある】(「興味がある」と「どちらかというに興味がある」の合計)と回答した割合は「美術系」に最も興味がある層では85.4%、「演劇・舞踊系」に最も興味がある層では82.7%と、他のジャンルに最も興味がある層と比較して高くなっている。

【図表 27】文化芸術への興味（最も興味のある芸術文化活動のジャンル別）

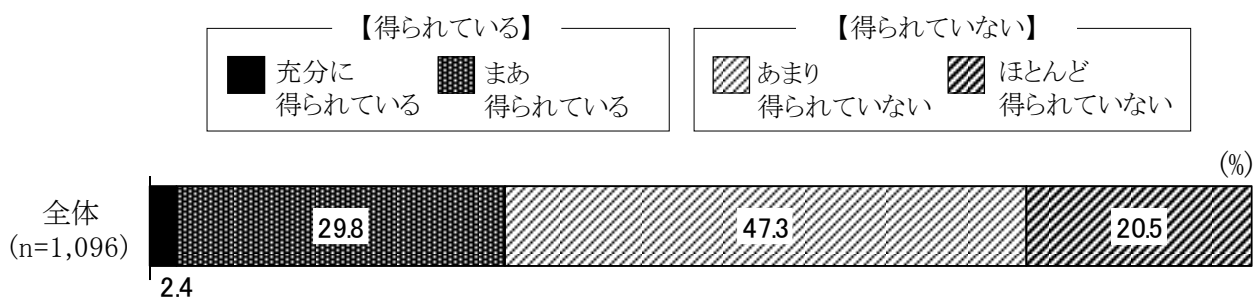


(5)「文化芸術活動（イベントや講座）」に関する情報取得について

Q10. 市内で行われている「文化芸術活動（イベントや講座）」について、あなたは必要な情報を取得できていると思いますか。

Q8で文化芸術活動に「興味がある」「どちらかというに興味がある」「どちらかというに興味がない」と回答した人に、市内で行われている「文化芸術活動（イベントや講座）」について必要な情報が取得できているかたずねたところ、「十分に得られている」と「まあ得られている」を合計した【得られている】は32.2%、「あまり得られていない」と「ほとんど情報を得られていない」を合計した【得られていない】は67.8%であった。

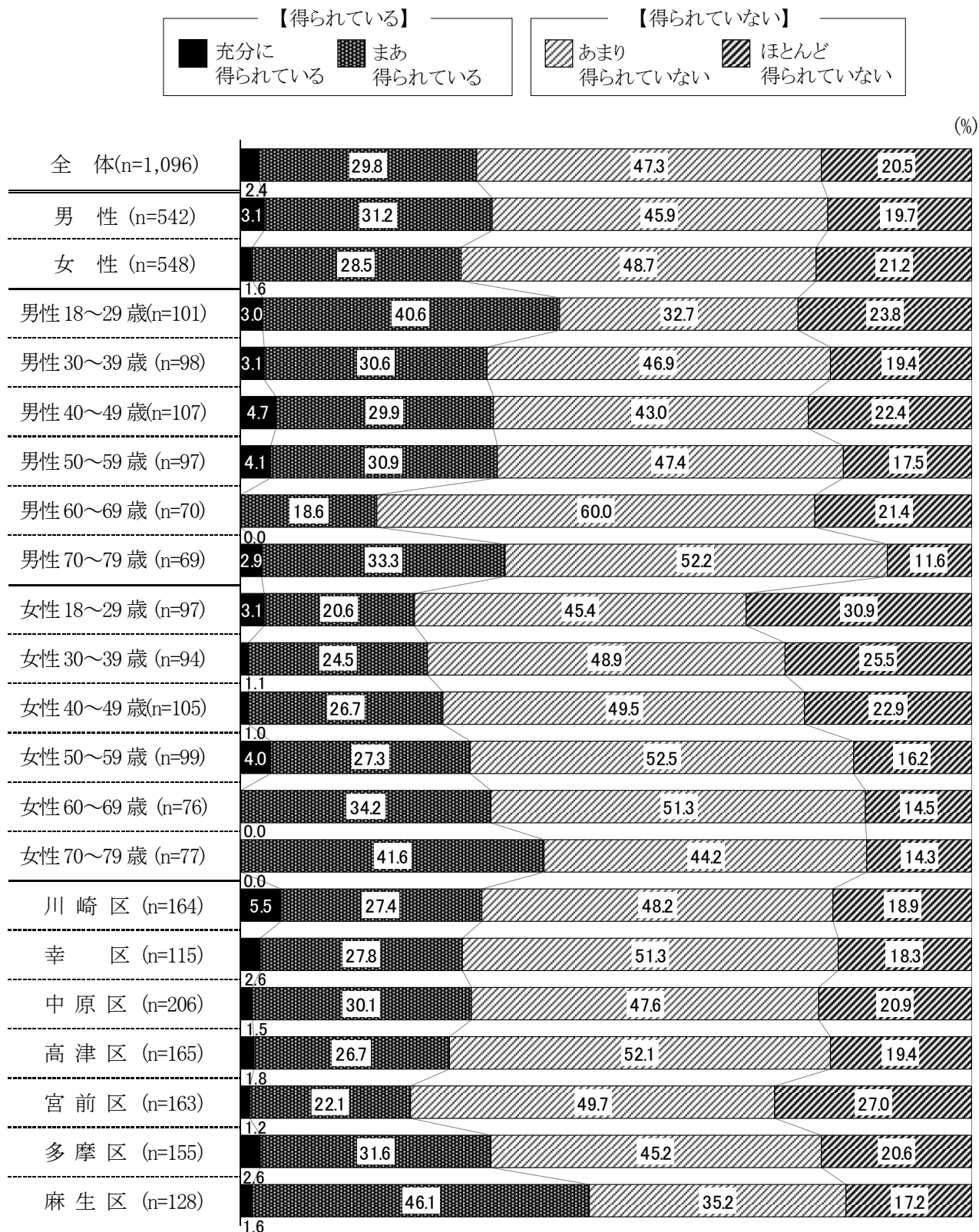
【図表 28】「文化芸術活動（イベントや講座）」に関する情報取得について



性／年齢別に見ると、男性は【得られている】は18～29歳で43.6%と最も多く、60～69歳で18.6%と最も少ない。女性は70～49歳で41.6%と最も多く、年代が低くなるほど少なくなっており、18～29歳では23.7%であった。

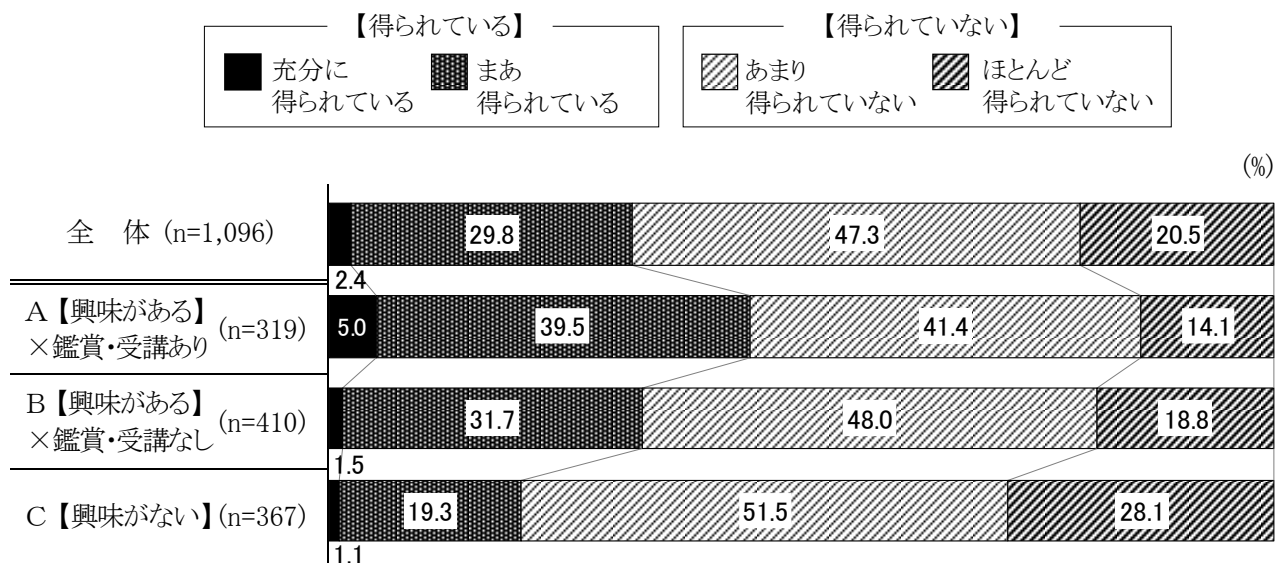
居住区別に見ると、【得られている】は、麻生区で47.7%と、他区と比較して最も多い。

【図表 29】「文化芸術活動（イベントや講座）」に関する情報取得について（性／年齢別、居住区別）



Q6の「過去1年間の、鑑賞した文化芸術や受講した公開講座、市民大学の状況」とQ8「文化芸術への興味」の回答状況から分類した3つのグループ別(39頁参照)に見ると、Aの文化芸術に興味があり過去1年間で鑑賞・受講をしているグループは44.5%が【得られている】と回答しているが、Bの文化芸術に興味はあるが過去1年間では鑑賞・受講をしていないグループでは【得られている】は33.2%と、10ポイント以上低くなっている。

【図表 30】「文化芸術活動(イベントや講座)」に関する情報取得について
(文化芸術への興味と過去1年間の文化芸術や公開講座等の鑑賞・受講状況別)

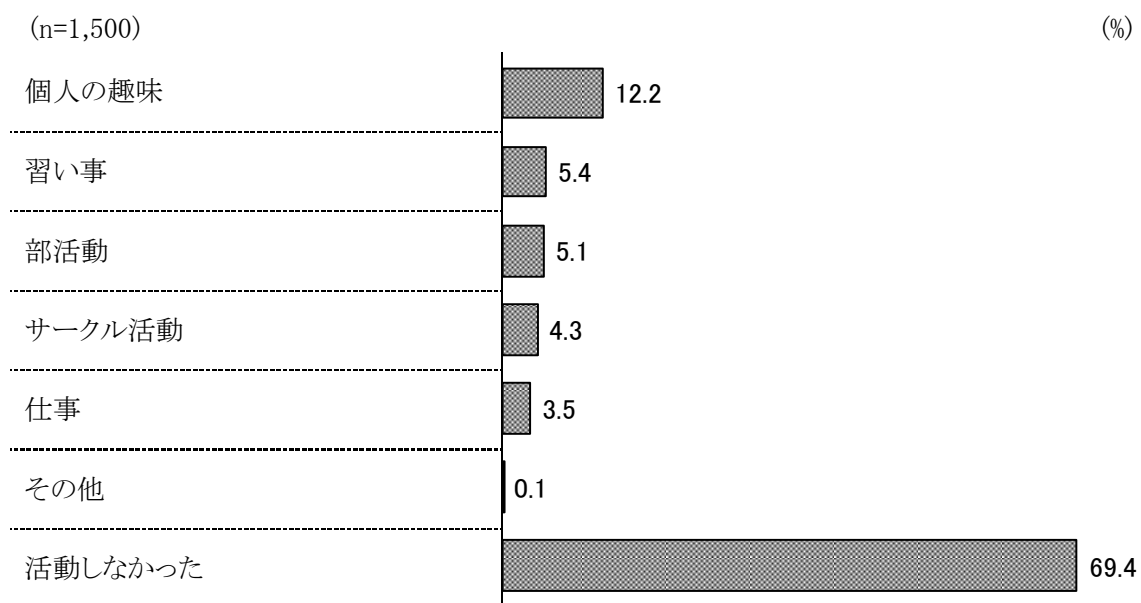


(6) 文化芸術活動を行ったときの活動形式

Q11. これまでに、文化芸術活動を1年以上行ったことがある場合、その活動を行った活動形式で最も注力した形はどれですか。最もあてはまるものを1つ選んでください。なお、活動しなかった方は「活動しなかった」を選択してください。

「活動しなかった」が69.4%と最も多くなっている。活動した場合の形式としては、「個人の趣味」が12.2%と最も多く、次いで「習い事」(5.4%)、「部活動」(5.1%)と続いている。

【図表 31】文化芸術活動を行ったときの活動形式



(7) 文化芸術の鑑賞や活動を行うときに重視するポイント

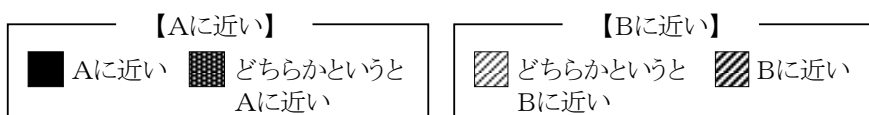
Q12. 文化芸術の鑑賞や活動を行うときに重視するポイントとして、AとBの考え方ではどちらの方があなたのお考えに近いと思われますか。項目ごとに最もあてはまるものを1つずつ選んでください。

- ① A: 時間を作って集中的に行いたい
B: 空いた時間ですぐに鑑賞や活動ができる

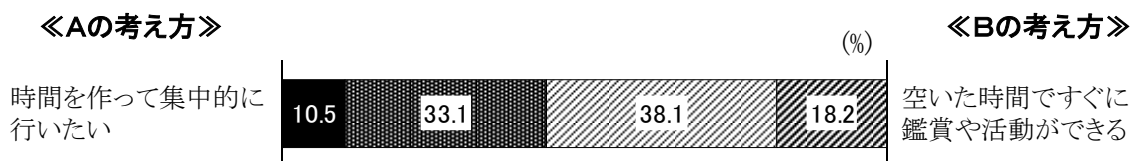
【Bに近い】が56.3%と、『空いた時間ですぐに鑑賞や活動ができる』という考え方に近いと回答した人の方がやや多かった。

【図表 32】文化芸術の鑑賞や活動を行うときに重視するポイント

A : 時間を作って集中的に行いたい
B : 空いた時間ですぐに鑑賞や活動ができる



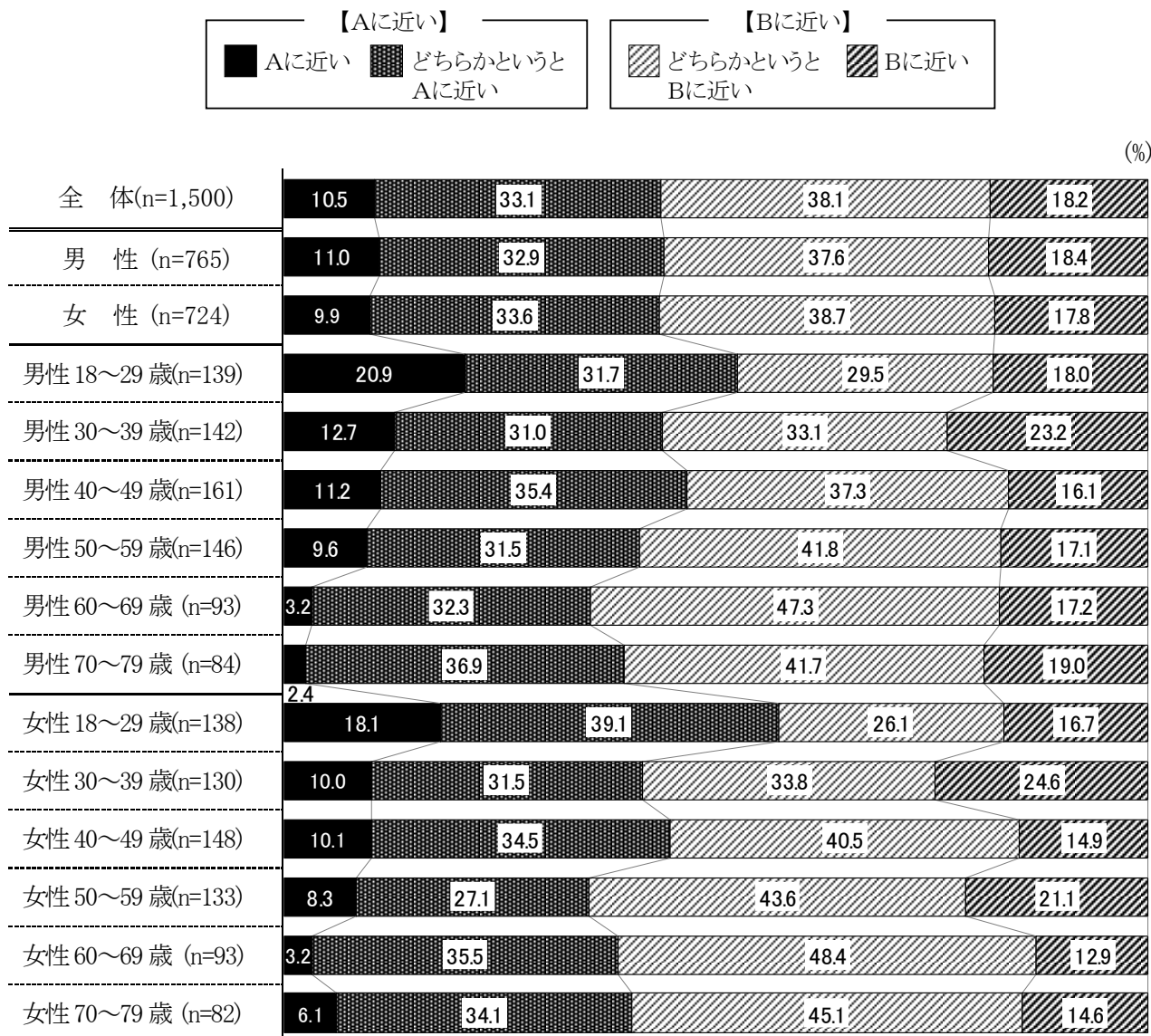
(n=1,500)



性／年齢別に見ると、男女ともに18～29歳では【Aに近い】(時間を作って集中的に行いたい)の方が多いが、30歳代以上では【Bに近い】(空いた時間ですぐに鑑賞や活動ができる)の方が多

【図表 33】文化芸術の鑑賞や活動を行うときに重視するポイント (性／年齢別)

(A : 時間を作って集中的に行いたい
 B : 空いた時間ですぐに鑑賞や活動ができる)

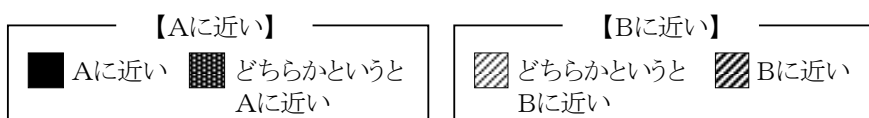


- ② A: 雰囲気など含めて知りたいので自宅外で鑑賞や活動をしたい
B: 自宅で鑑賞や活動をしたい

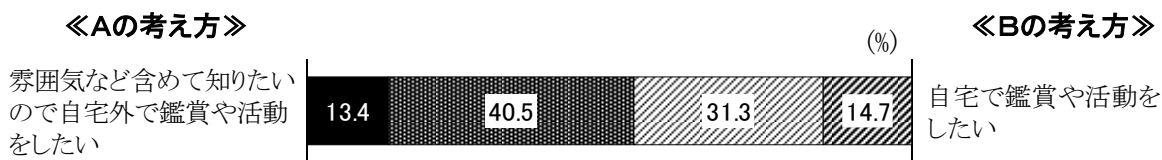
【Aに近い】が53.9%、【Bに近い】が46.1%と、『雰囲気など含めて知りたいので自宅外で鑑賞や活動をしたい』・『自宅で鑑賞や活動をしたい』それぞれの考え方に近いと回答した人の割合はほぼ同程度であった。

【図表 34】文化芸術の鑑賞や活動を行うときに重視するポイント

〔 A : 雰囲気など含めて知りたいので自宅外で鑑賞や活動をしたい
B : 自宅で鑑賞や活動をしたい 〕



(n=1,500)

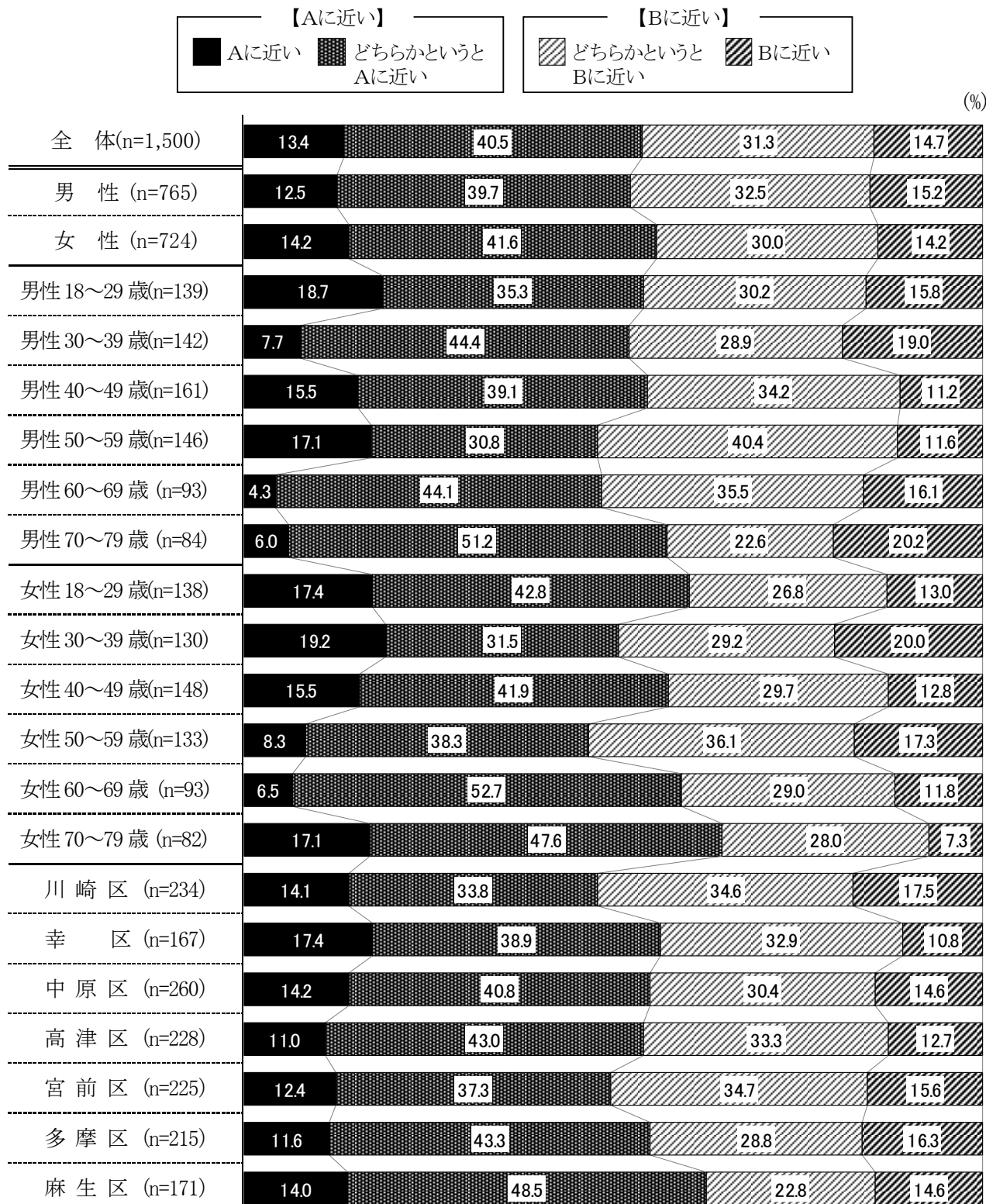


性／年齢別に見ると、男性 50 歳代～60 歳代、女性 50～59 歳では【Bに近い】(自宅で鑑賞や活動をしたい)の方が多いが、他の性／年齢では【Aに近い】(雰囲気など含めて知りたいので自宅外で鑑賞や活動をしたい)の方が多い。

居住区別に見ると、他区と比較して川崎区は【Bに近い】が最も多く、麻生区は【Aに近い】が最も多い。

【図表 35】文化芸術の鑑賞や活動を行うときに重視するポイント (性／年齢別、居住区別)

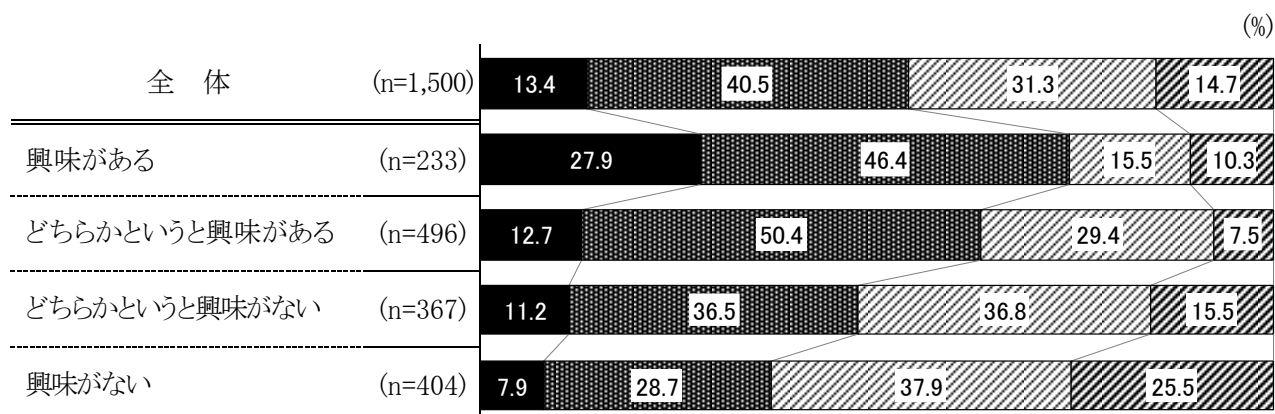
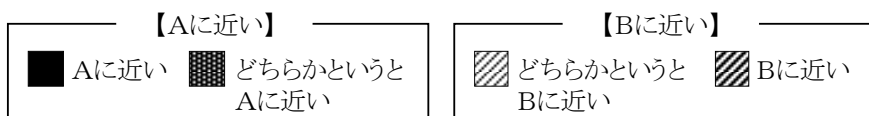
〔 A : 雰囲気など含めて知りたいので自宅外で鑑賞や活動をしたい
 B : 自宅で鑑賞や活動をしたい 〕



Q8の「文化芸術への興味」の度合い別に見ると、興味の度合いが高いほど【Aに近い】が多い傾向があり、「興味がある」では74.2%となっている

【図表 36】文化芸術の鑑賞や活動を行うときに重視するポイント（文化芸術への興味の度合い別）

（ A：雰囲気など含めて知りたいので自宅外で鑑賞や活動をしたい
 B：自宅で鑑賞や活動をしたい ）



- ③ A: 質の高い鑑賞や活動ができる
B: 安価で鑑賞や活動をしたい

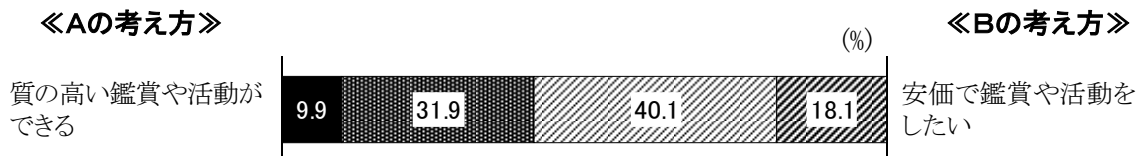
【Bに近い】が58.3%と、『安価で鑑賞や活動をしたい』という考え方に近いと回答した人の方がやや多かった。

【図表 37】文化芸術の鑑賞や活動を行うときに重視するポイント

(A : 質の高い鑑賞や活動ができる
B : 安価で鑑賞や活動をしたい)



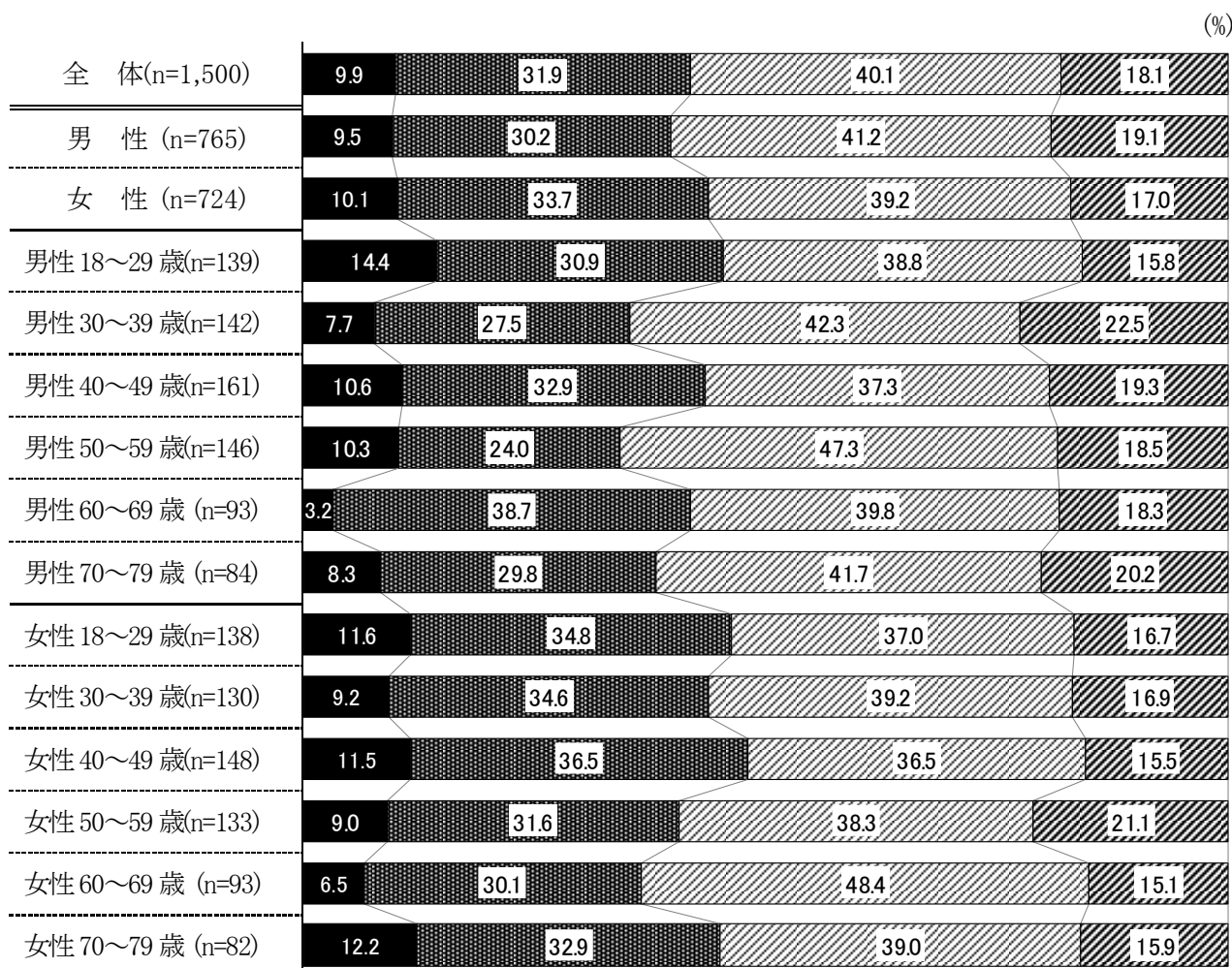
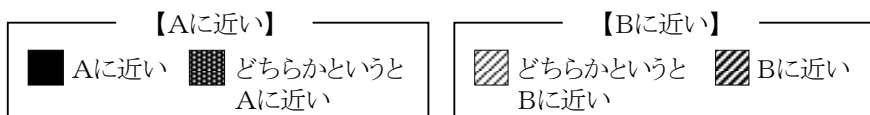
(n=1,500)



性／年齢別に見ると、男女ともに全ての年齢層で【Bに近い】(安価で鑑賞や活動をしたい)の方が多く、男性50～59歳で65.8%と最も多い。

【図表 38】文化芸術の鑑賞や活動を行うときに重視するポイント (性／年齢別)

〔 A : 質の高い鑑賞や活動ができる
B : 安価で鑑賞や活動をしたい 〕



④ A:友人や家族と楽しみたい

B:1人で楽しみたい

【Aに近い】が46.4%、【Bに近い】が53.6%と、『友人や家族と楽しみたい』・『1人で楽しみたい』それぞれの考え方に近いと回答した人の割合はほぼ同程度であった。

【図表 39】文化芸術の鑑賞や活動を行うときに重視するポイント

(A : 友人や家族と楽しみたい
B : 1人で楽しみたい)



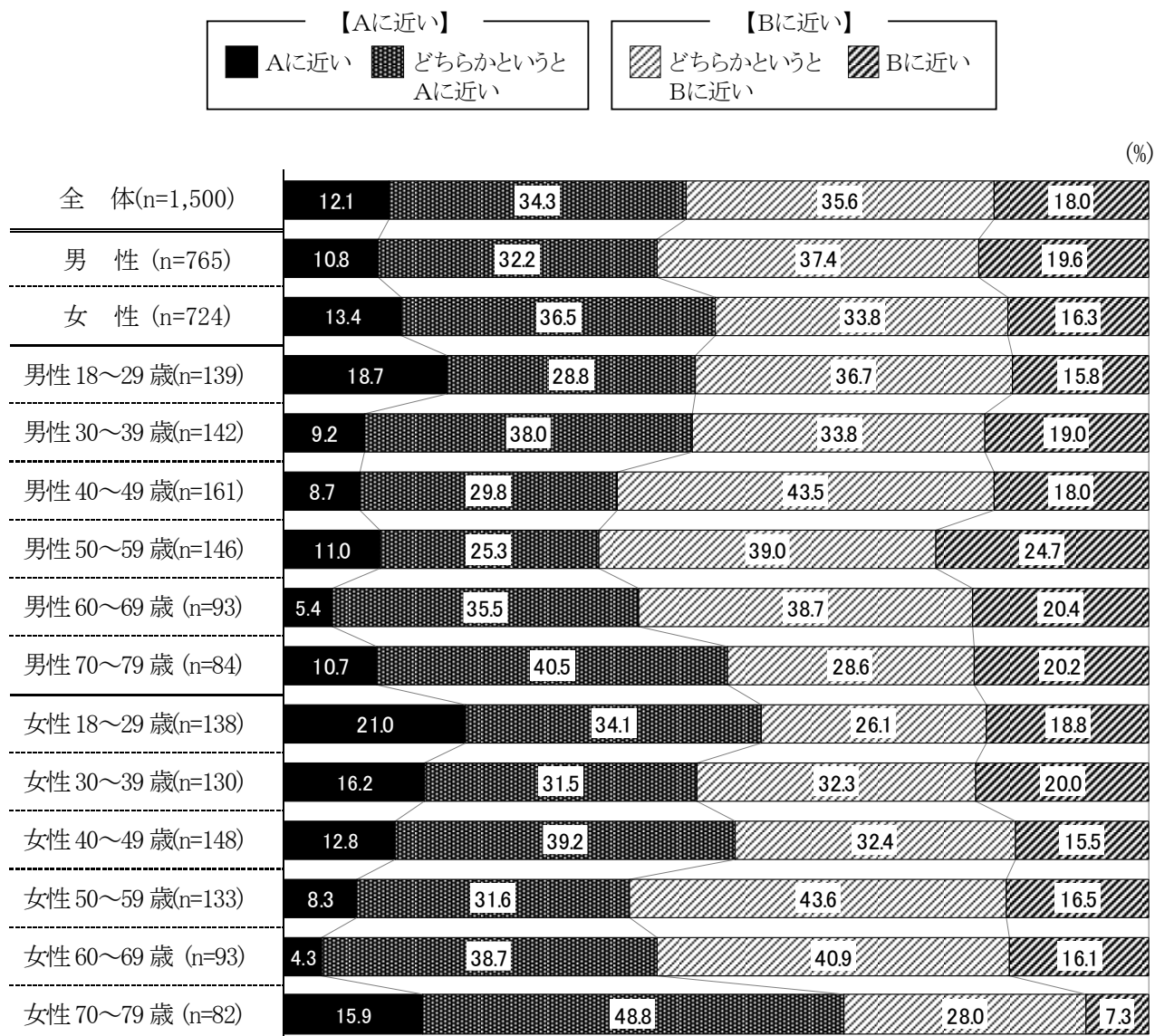
(n=1,500)



性／年齢別に見ると、女性 18～29 歳と 70～79 歳では【Aに近い】(友人や家族と楽しみたい)の方が 10 ポイント以上高く、特に女性 70～79 歳では【Aに近い】が 64.6%と最も多い。一方で、男性 40 歳代～60 歳代と女性 50 歳代～60 歳代では【Bに近い】(1人で楽しみたい)の方が 10 ポイント以上高くなっている。

【図表 40】文化芸術の鑑賞や活動を行うときに重視するポイント (性／年齢別)

〔 A : 友人や家族と楽しみたい
B : 1人で楽しみたい 〕

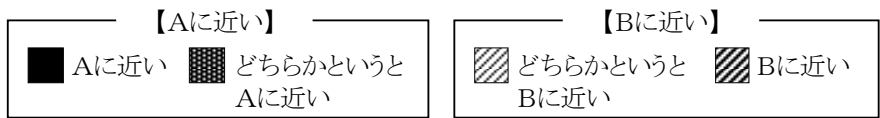


- ⑤ A: 都内・横浜市内であれば移動コストはあまり気にならない
B: 市内などできるだけ身近な場所で鑑賞や活動をしたい

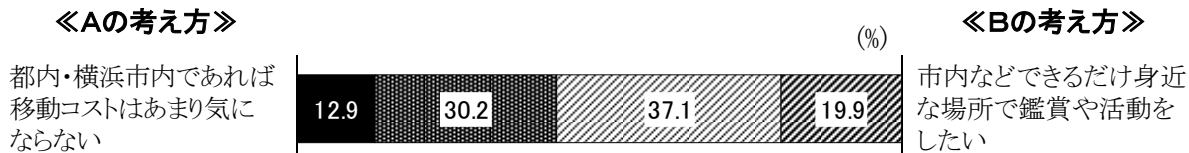
【Bに近い】が56.9%と、『市内などできるだけ身近な場所で鑑賞や活動をしたい』という考え方に近いと回答した人の方がやや多かった。

【図表 41】文化芸術の鑑賞や活動を行うときに重視するポイント

A : 都内・横浜市内であれば移動コストはあまり気にならない
B : 市内などできるだけ身近な場所で鑑賞や活動をしたい



(n=1,500)

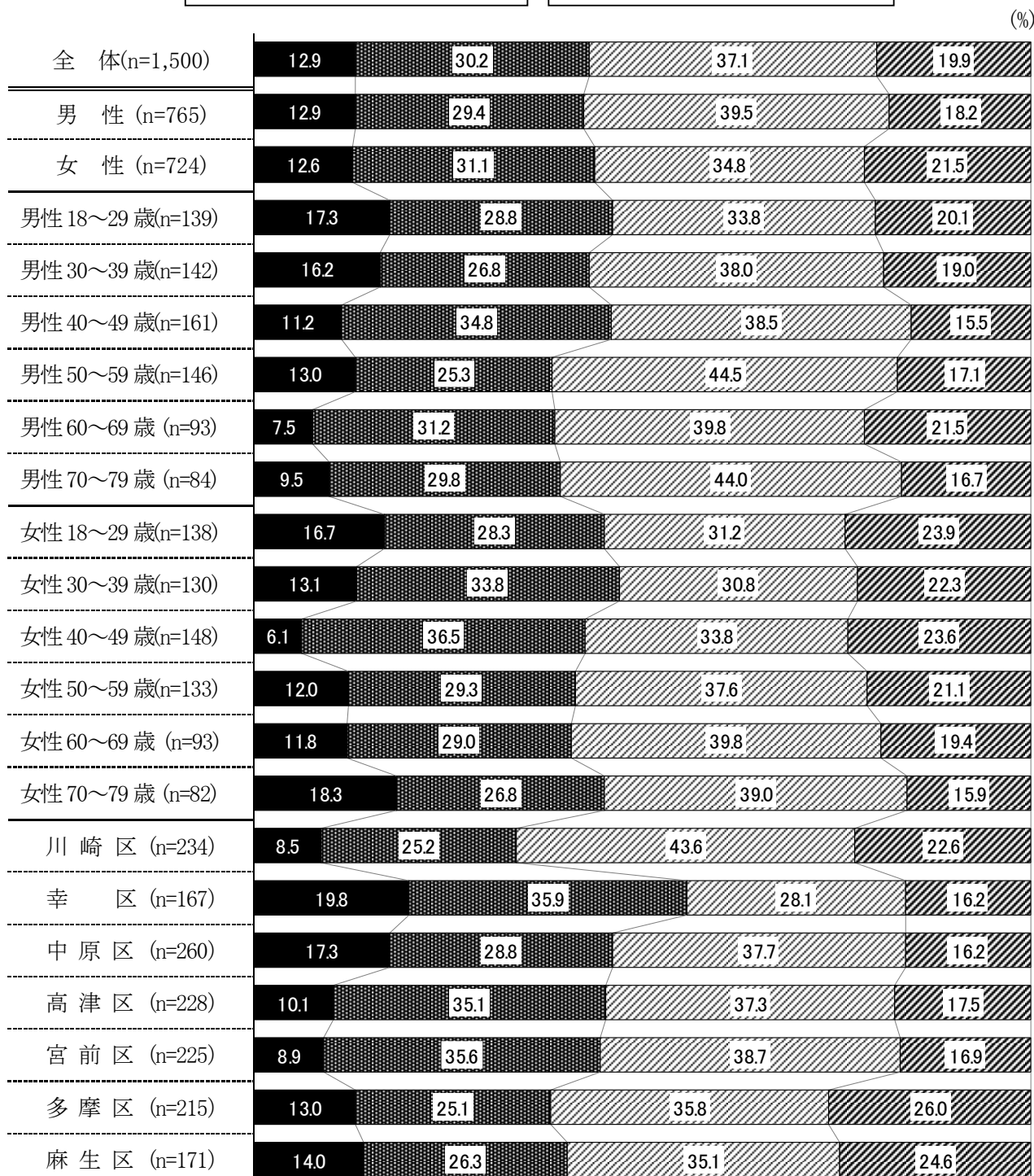


性／年齢別に見ると、男女ともに全ての年齢層で【Bに近い】（市内などできるだけ身近な場所で鑑賞や活動をしたい）の方が多く、特に男性の50歳代～70歳代では6割を超えている。

居住区別に見ると、他区と比較して幸区は【Aに近い】が最も多く、川崎区、多摩区は【Bに近い】が多い。

【図表 42】文化芸術の鑑賞や活動を行うときに重視するポイント（性／年齢別、居住区別）

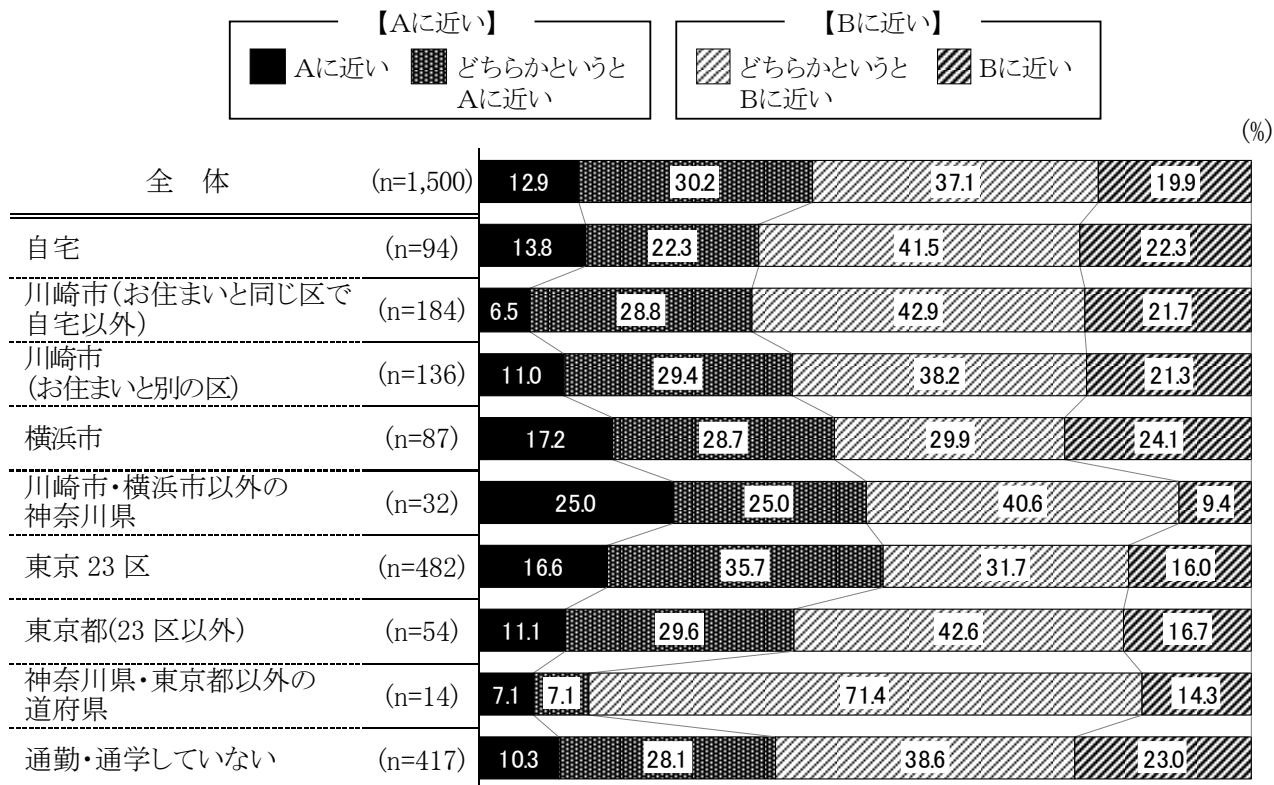
〔 A：都内・横浜市内であれば移動コストはあまり気にならない
B：市内などできるだけ身近な場所で鑑賞や活動をしたい 〕



通勤先・通学先別に見ると、「東京23区」は【Aに近い】が最も多く、「自宅」や「川崎市（お住まいと同じ区で自宅以外）」「通勤・通学していない」は【Bに近い】が多い。

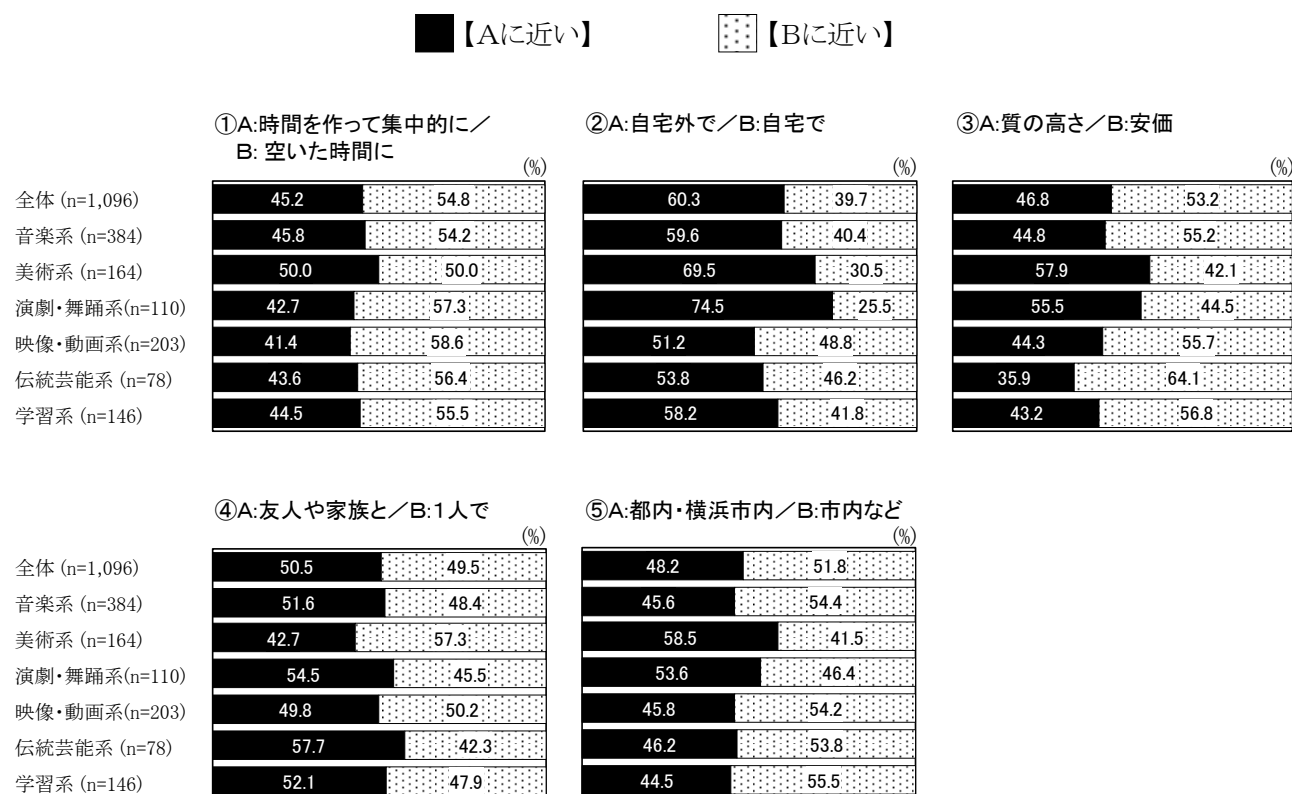
【図表 43】文化芸術の鑑賞や活動を行うときに重視するポイント（通勤先・通学先別）

（ A：都内・横浜市内であれば移動コストはあまり気にならない
 B：市内などできるだけ身近な場所で鑑賞や活動をしたい ）



Q12の各項目をQ9の「興味を持っている芸術文化活動のジャンル」別に見ると、「美術系」と「演劇・舞踊系」に興味を持っている人は、「雰囲気など含めて知りたいので自宅外で鑑賞や活動をしたい」や「質の高い鑑賞や活動をしたい」といった点を重視し、「都内・横浜市内であれば移動コストはあまり気にならない」と考える人が他のジャンルに興味がある人と比べて多くなっている。また、「美術系」に興味を持っている人は、「1人で楽しみたい」と考える人が他のジャンルに興味がある人と比べて多くなっている。

【図表 44】文化芸術の鑑賞や活動を行うときに重視するポイント
(興味を持っている芸術文化活動のジャンル別)



1.3 公共施設について

(1) 公共施設の適正な配置に関する考え方

Q13. 財政状況や将来の人口構造の変化等を鑑みると、将来的に求められる公共施設の量や質を踏まえつつ、施設のあり方について考えていく必要があります。公共施設の適正な配置について考えるにあたり、AとBの考え方ではどちらの方があなたのお考えに近いと思われますか。項目ごとに最もあてはまるものを1つずつ選んでください。

- ① A: 公共施設の配置やあり方について、専門的でよくわからないし、あまり関心がない
- B: 公共施設の配置やあり方について、行政からの情報発信や今後の取組に関心を持っている

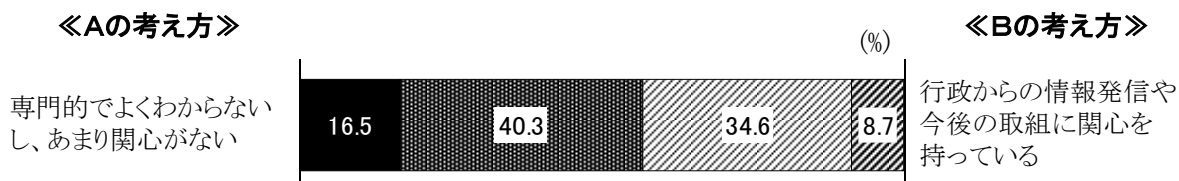
【Aに近い】が56.7%と、『公共施設の配置やあり方について、専門的でよくわからないし、あまり関心がない』という考え方に近いと回答した人の方がやや多かった。

【図表 45】 公共施設の適正な配置に関する考え方

A : 公共施設の配置やあり方について、専門的でよくわからないし、あまり関心がない
B : 公共施設の配置やあり方について、行政からの情報発信や今後の取組に関心を持っている



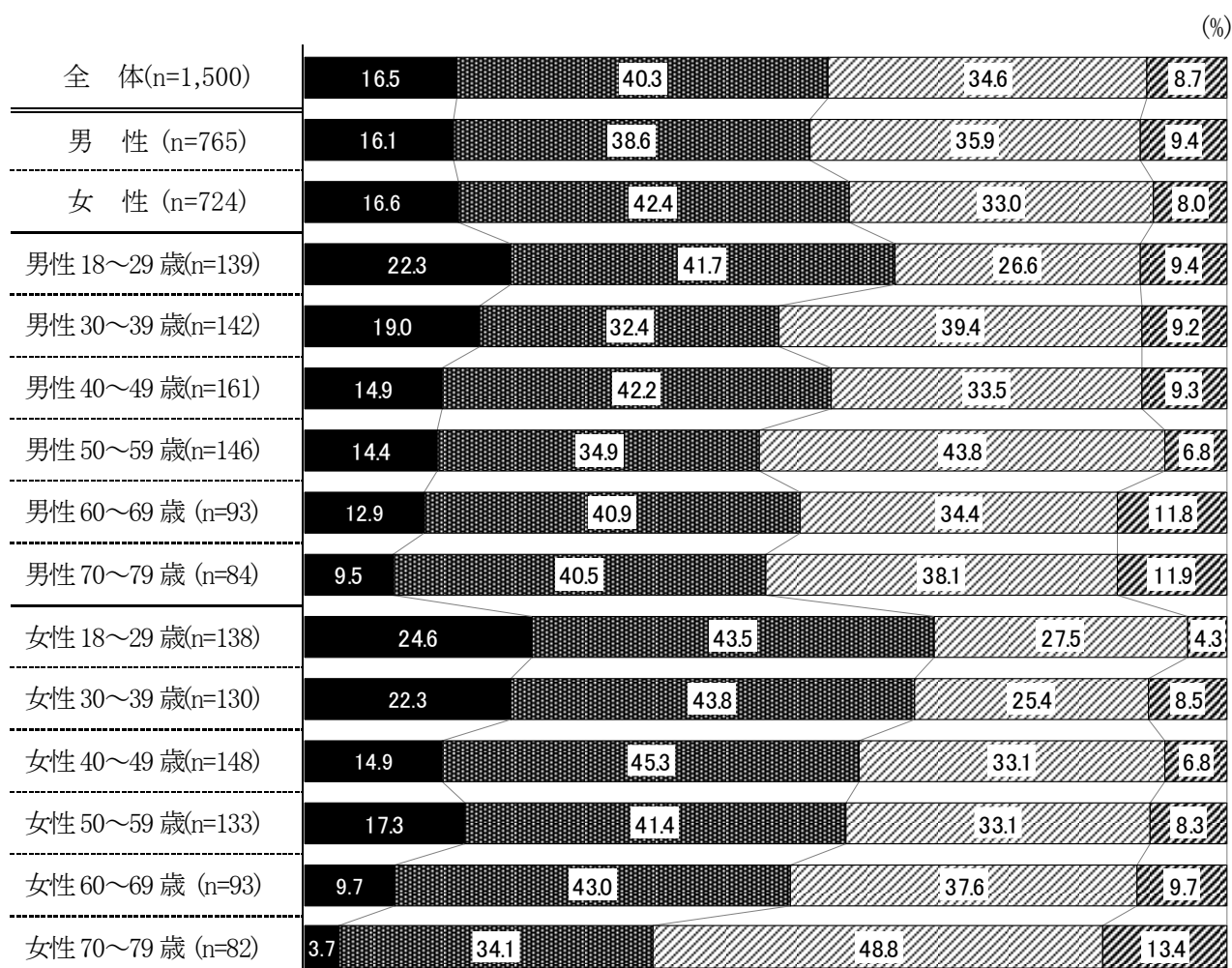
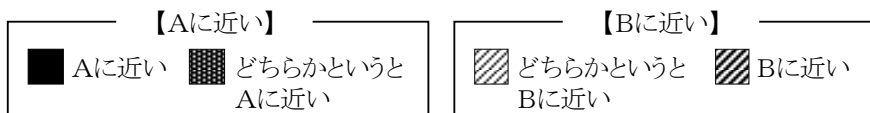
(n=1,500)



性／年齢別に見ると、男女ともに18～29歳で【Aに近い】（専門的でよくわからないし、あまり関心がない）が最も多く、女性では年代が高くなるほど【Bに近い】（行政からの情報発信や今後の取組に関心を持っている）が多くなっている。

【図表 46】 公共施設の適正な配置に関する考え方（性／年齢別）

A：公共施設の配置やあり方について、専門的でよくわからないし、あまり関心がない
 B：公共施設の配置やあり方について、行政からの情報発信や今後の取組に関心を持っている

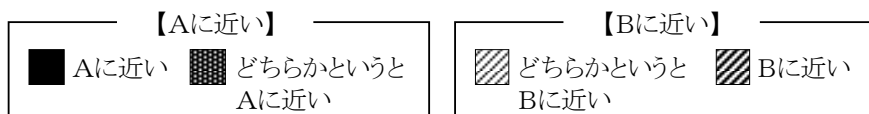


- ② A: 最寄駅に近いなど、施設への行きやすさや交通利便性を重視すべきだ
B: 最寄駅から多少離れていたとしても、施設の使い勝手や機能、提供されるサービスが充実しているほうがよい

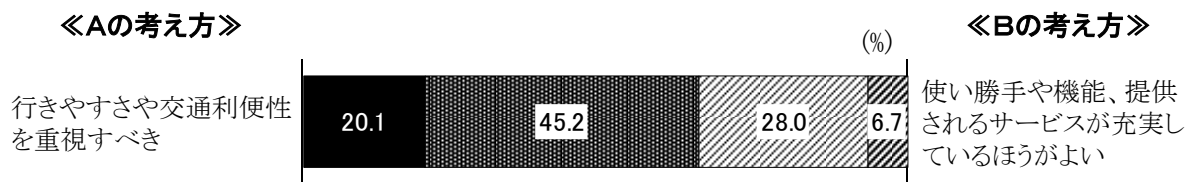
【Aに近い】が65.3%と、『最寄駅に近いなど、施設への行きやすさや交通利便性を重視すべきだ』という考え方に近いと回答した人の方が多かった。

【図表 47】 公共施設の適正な配置に関する考え方

- A : 最寄駅に近いなど、施設への行きやすさや交通利便性を重視すべきだ
- B : 最寄駅から多少離れていたとしても、施設の使い勝手や機能、提供されるサービスが充実しているほうがよい



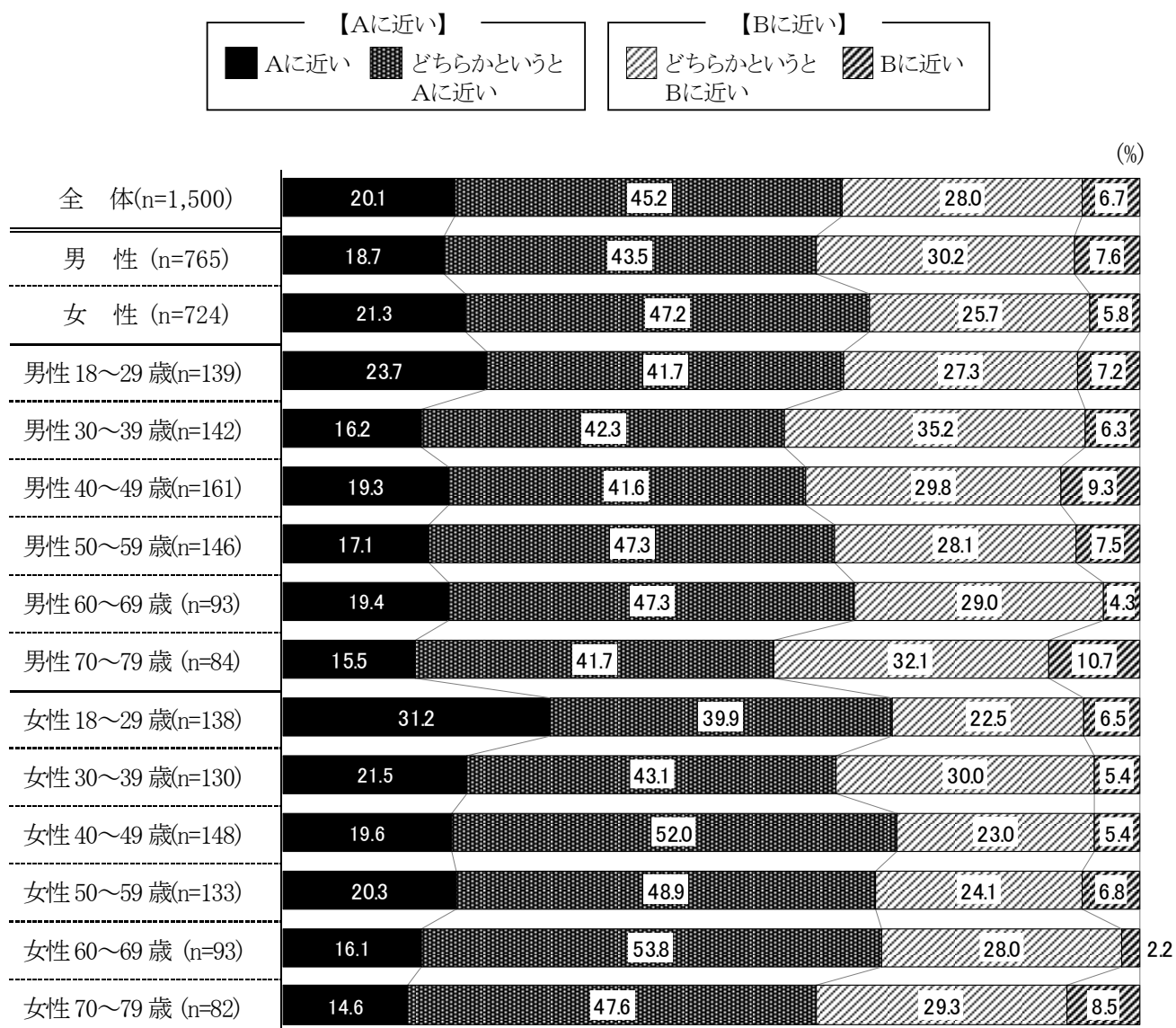
(n=1,500)



性／年齢別に見ると、男女ともに全ての年齢層で【Aに近い】（最寄駅に近いなど、施設への行きやすさや交通利便性を重視すべきだ）の方が多。男女ともに70～79歳で、【Bに近い】（最寄駅から多少離れていたとしても、施設の使い勝手や機能、提供されるサービスが充実しているほうがよい）と回答した割合が比較的多くなっている。

【図表 48】公共施設の適正な配置に関する考え方（性／年齢別）

A：最寄駅に近いなど、施設への行きやすさや交通利便性を重視すべきだ
 B：最寄駅から多少離れていたとしても、施設の使い勝手や機能、提供されるサービスが充実しているほうがよい

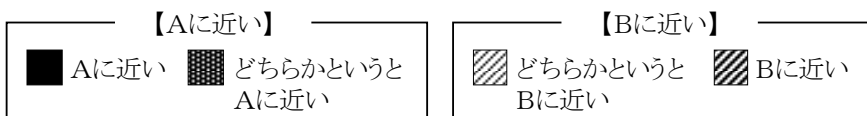


- ③ A: 提供される機能やサービスが変わらない、もしくは低下したとしても、各地域に置かれている施設については、そのままの数を残したい
- B: 提供される機能やサービスが充実・向上するのであれば、いくつかの施設を1つの施設に集約・統合したほうがよい

【Bに近い】が62.8%と、『提供される機能やサービスが充実・向上するのであれば、いくつかの施設を1つの施設に集約・統合したほうがよい』という考え方に近いと回答した人の方が多かった。

【図表 49】 公共施設の適正な配置に関する考え方

- A : 提供される機能やサービスが変わらない、もしくは低下したとしても、各地域に置かれている施設については、そのままの数を残したい
- B : 提供される機能やサービスが充実・向上するのであれば、いくつかの施設を1つの施設に集約・統合したほうがよい



(n=1,500)

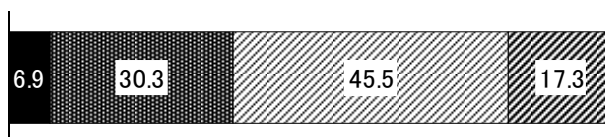
《Aの考え方》

提供される機能やサービスが変わらない、もしくは低下したとしても、各地域に置かれている施設については、そのままの数を残したい

(%)

《Bの考え方》

提供される機能やサービスが充実・向上するのであれば、いくつかの施設を1つの施設に集約・統合したほうがよい

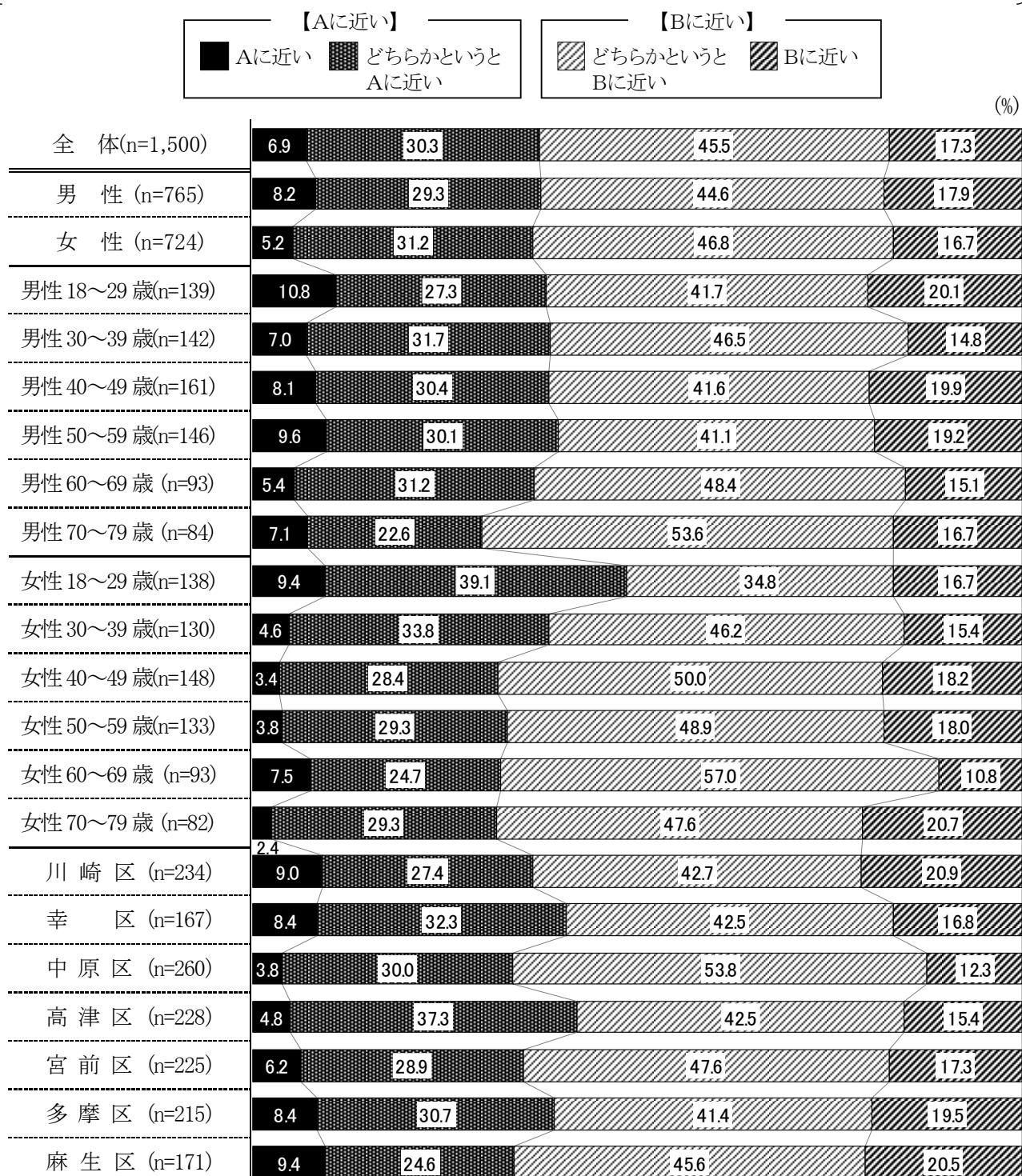


性／年齢別に見ると、男女ともに全ての年齢層で【Bに近い】(提供される機能やサービスが充実・向上するのであれば、いくつかの施設を1つの施設に集約・統合したほうがよい)の方が多く、特に男性の70～79歳では70%を超えている。なお、女性の18～29歳では【Aに近い】(提供される機能やサービスが変わらない、もしくは低下したとしても、各地域に置かれている施設については、そのままの数を残したい)が48.6%と、他の性／年齢と比べて多くなっている。

居住区別に見ると、中原区、麻生区は【Bに近い】が他の区と比較して多い。

【図表 50】公共施設の適正な配置に関する考え方(性／年齢別、居住区別)

- A : 提供される機能やサービスが変わらない、もしくは低下したとしても、各地域に置かれている施設については、そのままの数を残したい
 B : 提供される機能やサービスが充実・向上するのであれば、いくつかの施設を1つの施設に集約・統合したほうがよい



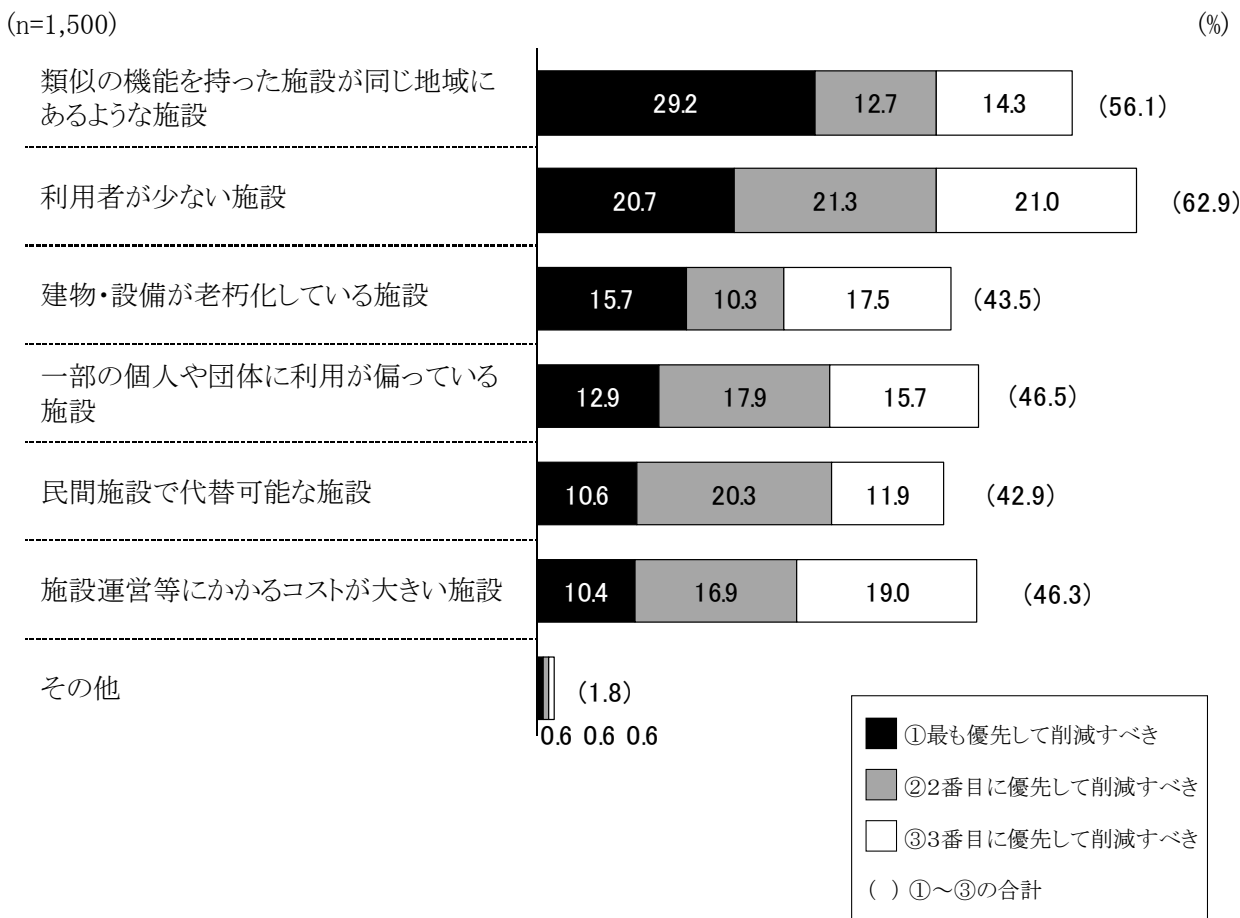
(2) 公共施設の数や面積の削減が必要になった場合の考え方

Q14. 川崎市における将来の人口動向（2030年以降人口減少見込）等を踏まえ、公共施設の数や面積を削減していかなくてはならなくなった場合、あなたはどのような施設について優先的に削減していく必要があると考えますか。

- ①最も優先して削減していく必要があると考えるもの
- ②2番目に優先して削減していく必要があると考えるもの
- ③3番目に優先して削減していく必要があると考えるもの

「①最も優先して削減していく必要があると考えるもの」としては、「類似の機能を持った施設が同じ地域にあるような施設」が29.2%と最も多く、次いで「利用者が少ない施設」(20.7%)、「建物・設備が老朽化している施設」(15.7%)と続いている。また、「①最も優先して削減していく必要があると考えるもの」～「③3番目に優先して削減していく必要があると考えるもの」の合計では、「利用者が少ない施設」が62.9%と最も多く、次いで「類似の機能を持った施設が同じ地域にあるような施設」(56.1%)、「一部の個人や団体に利用が偏っている施設」(46.5%)と続いている。

【図表 51】 公共施設の数や面積の削減が必要になった場合の考え方

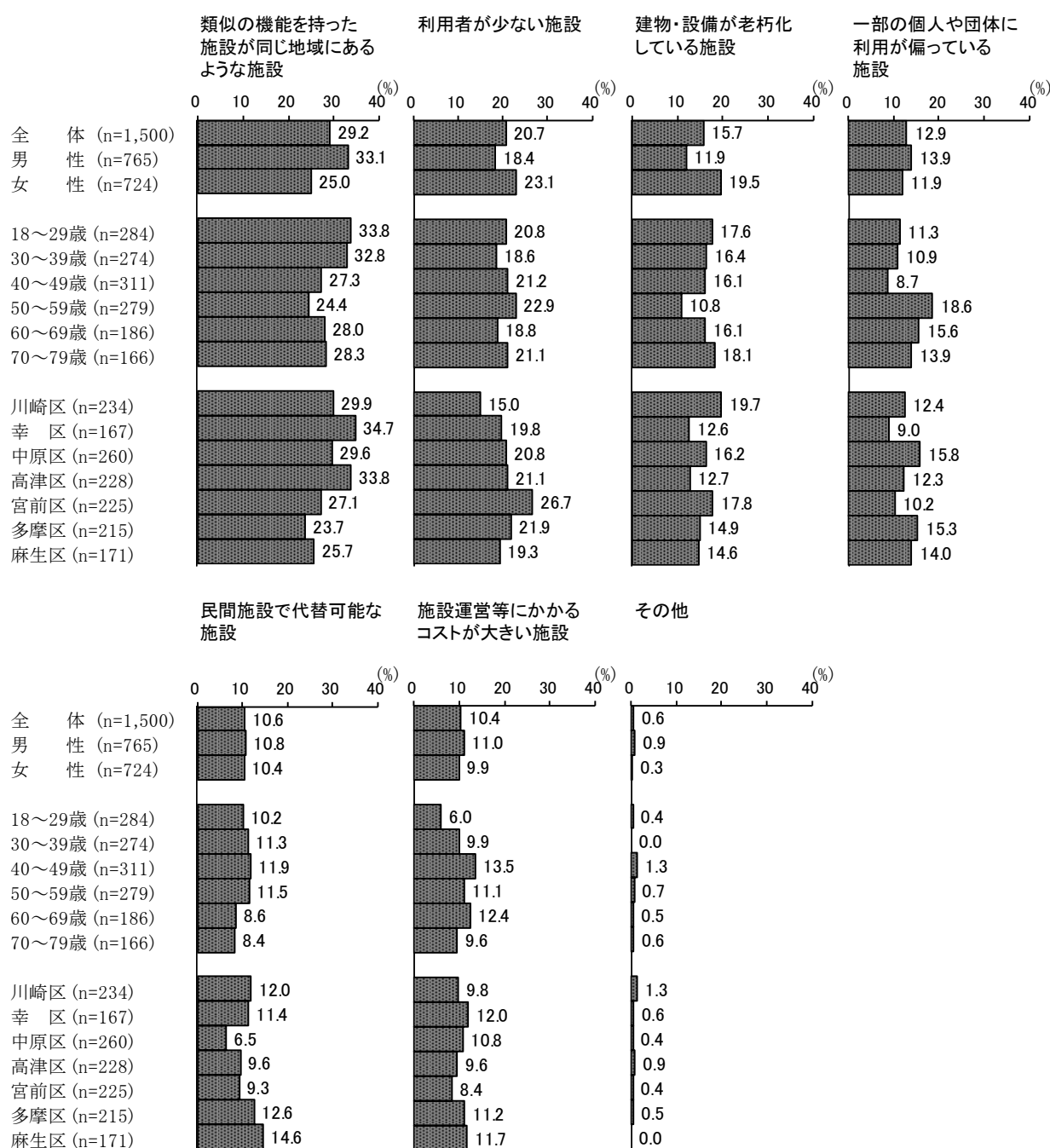


「①最も優先して削減していく必要があると考えるもの」について性別に見ると、「類似の機能を持った施設が同じ地域にあるような施設」では男性の方が、「利用者が少ない施設」「建物・設備が老朽化している施設」では女性の方が多くなっている。

年齢別に見ると、「類似の機能を持った施設が同じ地域にあるような施設」は18～29歳と30～39歳でやや多く、「一部の個人や団体に利用が偏っている施設」は50～59歳で他の年齢層と比べて多くなっている。

居住区別に見ると、「類似の機能を持った施設が同じ地域にあるような施設」では幸区と高津区で3割を超えて高く、「利用者が少ない施設」では宮前区、「建物・設備が老朽化している施設」では川崎区が他の区と比べてやや多い。

【図表 52】 公共施設の数や面積の削減が必要になった場合の考え方（性別・年齢別、居住区別）
 (①最も優先して削減していく必要があると考えるもの)



(3) 提供する機能（サービス）を増やしてほしいと感じる施設

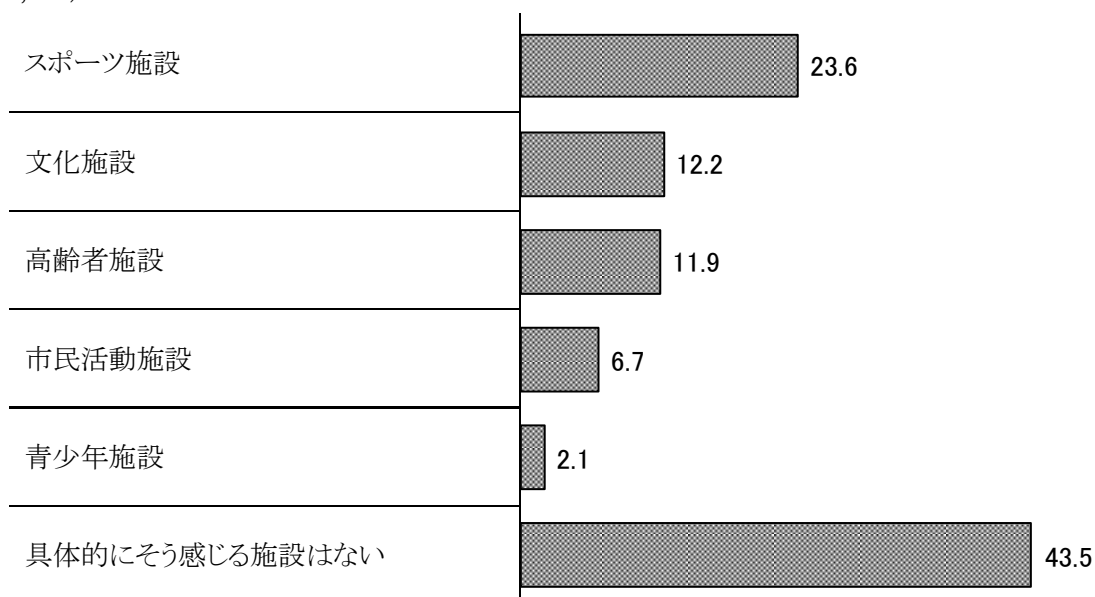
Q15. 現在の施設に対して、今の機能（サービス）の他に、提供する機能（サービス）を増やしてほしいと感じる施設はありますか。最もあてはまるものを1つ選んでください。

「具体的にそう感じる施設はない」が43.5%と最も多い。提供する機能（サービス）を増やしてほしいと感じる施設としては、「スポーツ施設」が23.6%と最も多く、次いで「文化施設」（12.2%）、「高齢者施設」（11.9%）と続いている。

【図表 53】 提供する機能（サービス）を増やしてほしいと感じる施設

(n=1,500)

(%)

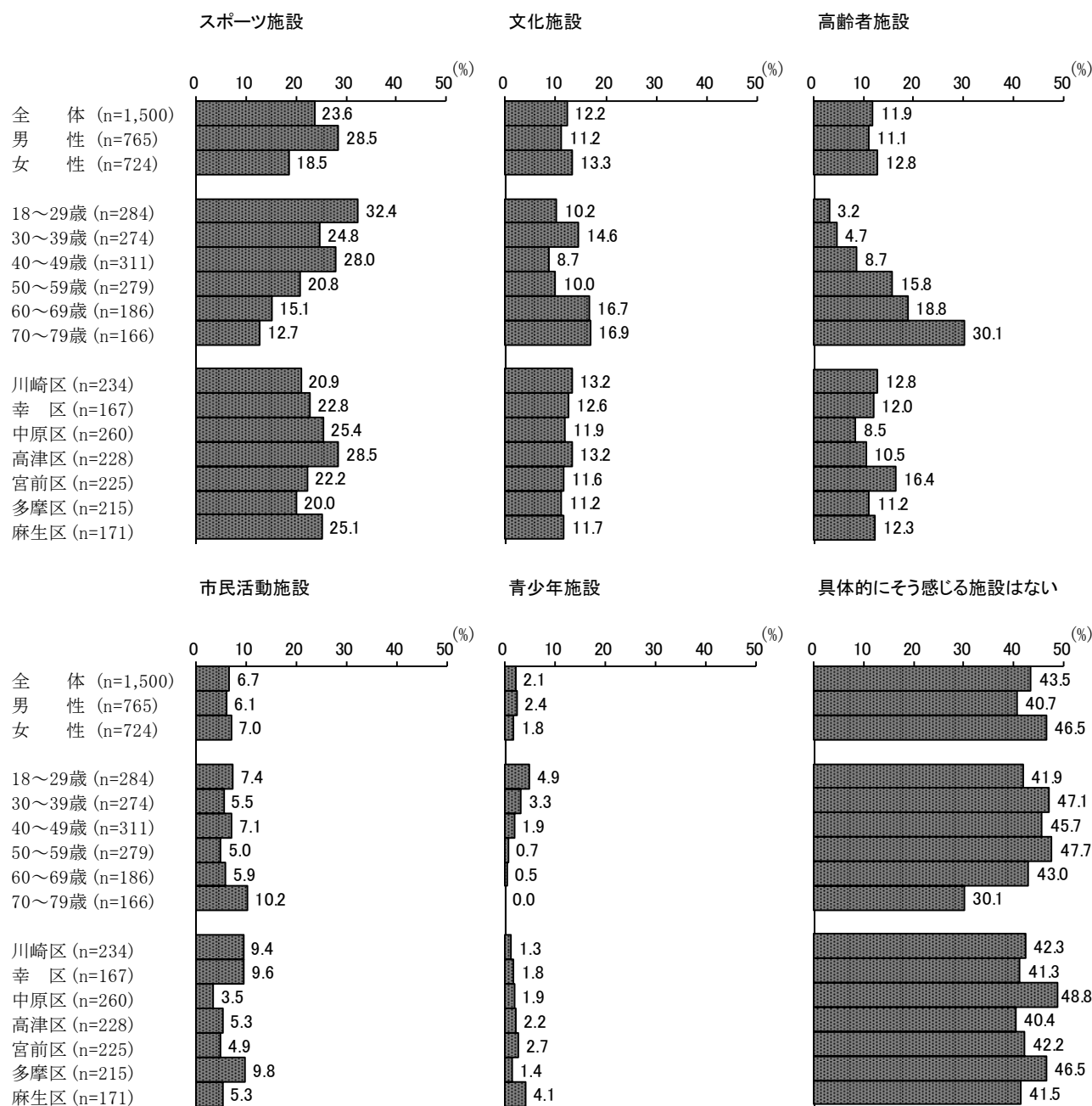


性別に見ると、「スポーツ施設」では男性の方が多く、「具体的にそう感じる施設はない」は女性の方が多くなっている。

年齢別に見ると、「スポーツ施設」では18～29歳が最も多く、概ね年齢が高いほど少なくなっている。「高齢者施設」では70～79歳が最も多く、年齢が高いほど多くなっている。

居住区別に見ると、「スポーツ施設」では高津区が最も多く、多摩区が最も少ない。「高齢者施設」では宮前区が最も多く、中原区が最も少ない。「市民活動施設」では川崎区、幸区、多摩区でやや多い。

【図表 54】提供する機能（サービス）を増やしてほしいと感じる施設
(性別・年齢別・居住区別)



(4) 今後充実して欲しいと思う機能

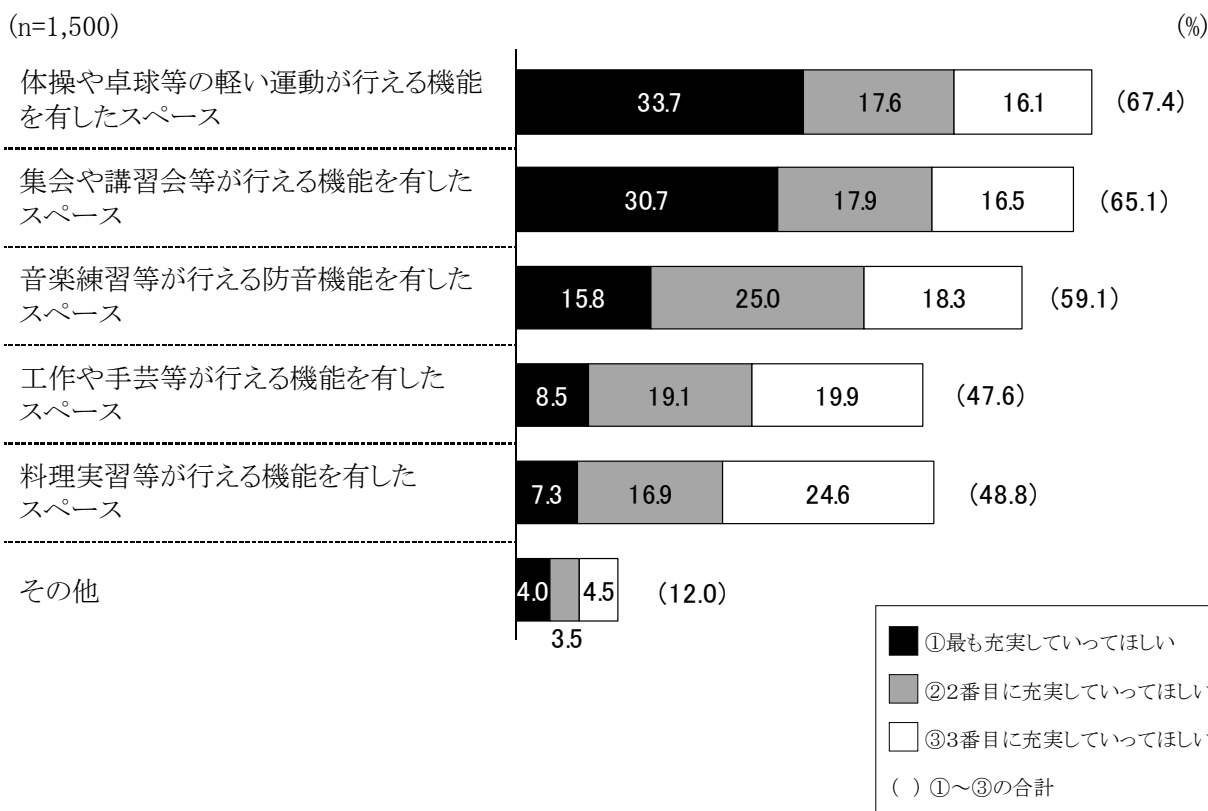
Q16. 提供される機能やサービスを重視しつつ、施設の最適な配置等の取組を進めていった際に、今後充実して欲しいと思う機能はどのような機能ですか。

- ①最も充実して欲しい機能・スペース
- ②2番目に充実して欲しい機能・スペース
- ③3番目に充実して欲しい機能・スペース

「①最も充実して欲しい機能・スペース」としては、「体操や卓球等の軽い運動が行える機能を有したスペース」が33.7%と最も多く、次いで「集会や講習会等が行える機能を有したスペース」(30.7%)、「音楽練習等が行える防音機能を有したスペース」(15.8%)と続いている。

「①最も充実して欲しい機能・スペース」～「③3番目に充実して欲しい機能・スペース」の合計でも、「体操や卓球等の軽い運動が行える機能を有したスペース」(67.4%)が最も多く、次いで「集会や講習会等が行える機能を有したスペース」(65.1%)、「音楽練習等が行える防音機能を有したスペース」(59.1%)と、1位～3位まで同様の順位となっている。

【図表 55】 今後充実して欲しいと思う機能

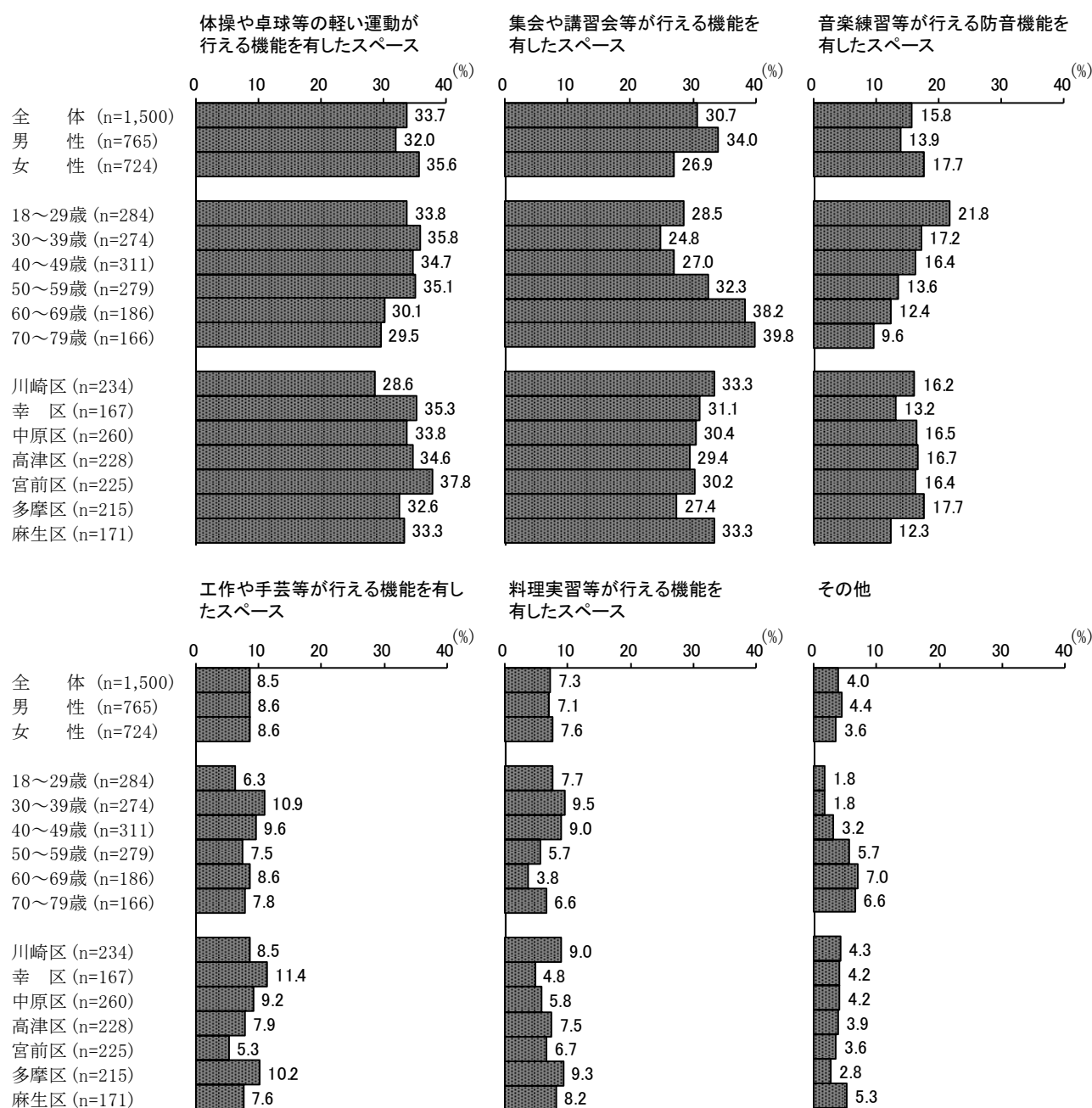


性別に見ると、「体操や卓球等の軽い運動が行える機能を有したスペース」「音楽練習等が行える防音機能を有したスペース」では女性の方が多く、「集会や講習会等が行える機能を有したスペース」では男性の方が多くなっている。

年齢別に見ると、「集会や講習会等が行える機能を有したスペース」では70～79歳が最も多く、概ね年齢が高いほど多くなっている。「音楽練習等が行える防音機能を有したスペース」では18～29歳が最も多く、年齢が高いほど少なくなっている。

居住区別に見ると、「体操や卓球等の軽い運動が行える機能を有したスペース」では宮前区が最も多い。「集会や講習会等が行える機能を有したスペース」では川崎区と麻生区が同率で最も多い。「工作や手芸等が行える機能を有したスペース」では幸区、多摩区でやや多くなっている。

【図表 56】 今後充実して欲しいと思う機能 (①最も充実して欲しい機能・スペース)
(性別・年齢別・居住区別)

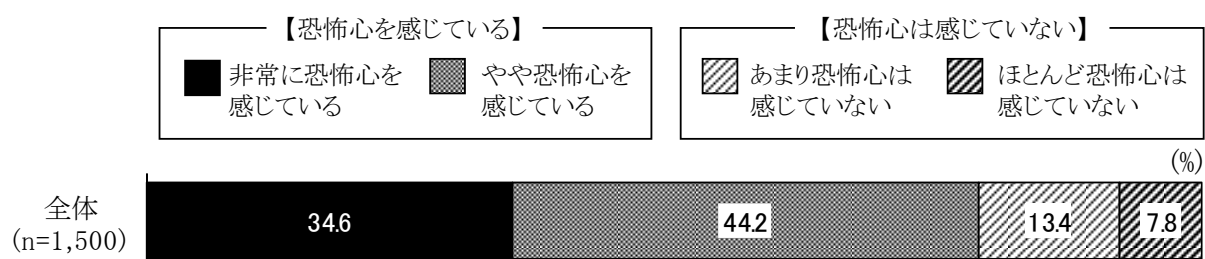


1.4 新型コロナウイルス感染症について

Q17. あなたは、あなた自身が新型コロナウイルス感染症に感染することに、どの程度恐怖心を感じられていますか。

「非常に恐怖心を感じている」と「やや恐怖心を感じている」を合計した【恐怖心を感じている】は78.8%、「あまり恐怖心を感じていない」と「ほとんど恐怖心を感じていない」を合計した【恐怖心は感じていない】は21.2%であった。

【図表 57】新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心



性／年齢別に見ると、男性よりも女性の方が【恐怖心を感じている】が多くなっている（男性：73.6%、女性：84.4%）。また、女性は年齢により大きな違いは見られないが、男性では「非常に恐怖心を感じている」が18～29歳では20.1%、70～79歳では47.6%と概ね年齢が高くなるほど多くなっている。

【図表 58】新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心（性別・年齢別）

